

Z590 D

ユーザーズマニュアル

改版 1001

12MJ-Z59D-1001R



製品の詳細については、GIGABYTE の Web サイトにアクセスしてください。



地球温暖化の影響を軽減するために、本製品の梱包材料はリサイクルおよび再使用可能です。GIGABYTEは、環境を保護するためにお客様と協力いたします。

著作権

© 2021 GIGA-BYTE TECHNOLOGY CO., LTD. 著作権所有。

本マニュアルに記載された商標は、それぞれの所有者に対して法的に登録されたものです。

免責条項

このマニュアルの情報は著作権法で保護されており、GIGABYTE に帰属します。このマニュアルの仕様と内容は、GIGABYTE により事前の通知なしに変更されることがあります。本マニュアルのいかなる部分も、GIGABYTE の書面による事前の承諾を受けることなしには、いかなる手段によっても複製、コピー、翻訳、送信または出版することは禁じられています。

ドキュメンテーションの分類

本製品を最大限に活用できるように、GIGABYTE では次のタイプのドキュメンテーションを用意しています：

- 製品を素早くセットアップできるように、製品に付属するクイックインストールガイドをお読みください。
- 詳細な製品情報については、ユーザーズマニュアルをよくお読みください。

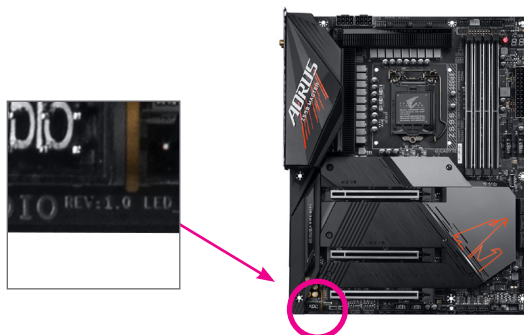
製品関連の情報は、以下の Web サイトを確認してください：

<https://www.gigabyte.com/jp>

マザーボードリビジョンの確認

マザーボードのリビジョン番号は「REV: X.X.」のように表示されます。例えば、「REV: 1.0」はマザーボードのリビジョンが 1.0 であることを意味します。マザーボード BIOS、ドライバを更新する前に、または技術情報をお探しの際は、マザーボードのリビジョンをチェックしてください。

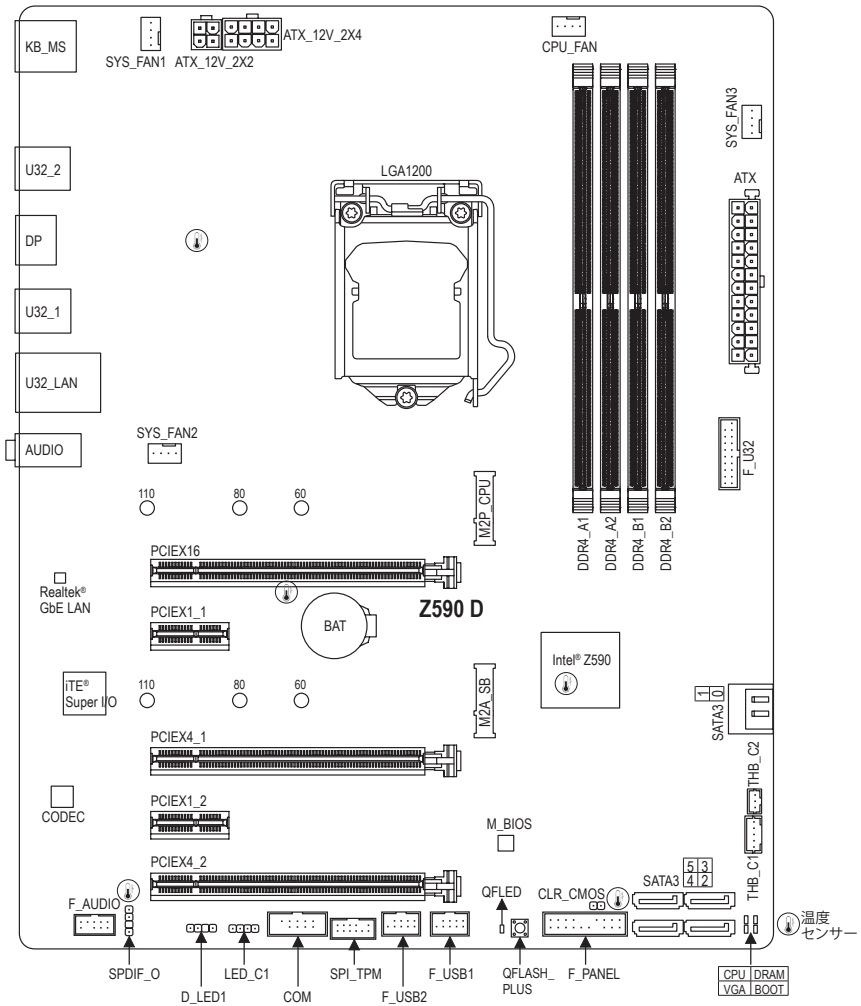
例：



目次

Z590 D マザーボードのレイアウト	4
第 1 章 ハードウェアの取り付け	5
1-1 取り付け手順	5
1-2 製品の仕様	6
1-3 CPU を取り付ける	9
1-4 メモリの取り付け	9
1-5 拡張カードを取り付ける	10
1-6 背面パネルのコネクター	10
1-7 内部コネクター	12
第 2 章 BIOS セットアップ	21
2-1 起動画面	21
2-2 メインメニュー	22
2-3 Smart Fan 6	23
2-4 Favorites (F11)	25
2-5 Tweaker	26
2-6 Settings	31
2-7 System Info. (システムの情報)	36
2-8 Boot	37
2-9 Save & Exit (保存して終了)	40
第 3 章 付録	41
3-1 RAID セットを設定する	41
3-2 Intel® Optane™ Memory and Storage Management インストール方法	42
3-3 ドライバのインストール	44
Regulatory Notices	45
連絡先	48

Z590 D マザーボードのレイアウト



ボックスの内容

- | | |
|--|--|
| <input checked="" type="checkbox"/> Z590 D マザーボード | <input checked="" type="checkbox"/> SATA ケーブル (x2) |
| <input checked="" type="checkbox"/> マザーボードドライバディスク | <input checked="" type="checkbox"/> M.2 ネジ |
| <input checked="" type="checkbox"/> ユーザーズマニュアル | <input checked="" type="checkbox"/> I/O シールド |

* 上記、ボックスの内容は参照用となります。実際と同梱物はお求めいただいた製品/パッケージにより異なる場合があります。また、ボックスの内容については、予告なしに変更する場合があります。







第1章 ハードウェアの取り付け






1-1 取り付け手順

マザーボードには、静電気放電(ESD)の結果、損傷する可能性のある精巧な電子回路やコンポーネントが数多く含まれています。取り付ける前に、ユーザーズマニュアルをよくお読みになり、以下の手順に従ってください。

- 取り付け前に、PCケースがマザーボードに適していることを確認してください。
- 取り付け前に、マザーボードのS/N(シリアル番号)ステッカーまたはディーラーが提供する保証ステッカーを取り外したり、はがしたりしないでください。これらのステッカーは保証の確認に必要です。
- マザーボードまたはその他のハードウェアコンポーネントを取り付けたり取り外したりする前に、常にコンセントからコードを抜いて電源を切ってください。
- ハードウェアコンポーネントをマザーボードの内部コネクタに接続しているとき、しっかりと安全に接続されていることを確認してください。
- マザーボードを扱う際には、金属リード線やコネクタには触れないでください。
- マザーボード、CPU またはメモリなどの電子コンポーネントを扱うとき、静電気放電(ESD) リストストラップを着用することをお勧めします。ESD リストストラップをお持ちでない場合、手を乾いた状態に保ち、まず金属に触れて静電気を取り除いてください。
- マザーボードを取り付ける前に、ハードウェアコンポーネントを静電防止パッドの上に置くか、静電遮断コンテナの中に入れてください。
- マザーボードから電源装置のケーブルを接続するまたは抜く前に、電源装置がオフになっていることを確認してください。
- パワーをオンにする前に、電源装置の電圧が地域の電源基準に従っていることを確認してください。
- 製品を使用する前に、ハードウェアコンポーネントのすべてのケーブルと電源コネクタが接続されていることを確認してください。
- マザーボードの損傷を防ぐために、ネジがマザーボードの回路やそのコンポーネントに触れないようにしてください。
- マザーボードの上またはコンピュータのケース内部に、ネジや金属コンポーネントが残っていないことを確認してください。
- コンピュータシステムは、平らでない面の上に置かないでください。
- コンピュータシステムを高温または湿った環境に設置しないでください。
- 取り付け中にコンピュータのパワーをオンにすると、システムコンポーネントが損傷するだけでなく、ケガにつながる恐れがあります。
- 取り付けの手順について不明確な場合や、製品の使用に関して疑問がある場合は、正規のコンピュータ技術者にお問い合わせください。
- アダプタ、延長電源ケーブルまたはテーブルタップを使用する場合は、その取り付けおよび接続手順を必ずお問い合わせください。

1-2 製品の仕様

	CPU	<ul style="list-style-type: none"> ◆ LGA1200 パッケージ： <ul style="list-style-type: none"> - 第11世代 Intel® Core™ i9プロセッサ/Intel® Core™ i7プロセッサ/Intel® Core™ i5プロセッサ - 第10世代 Intel® Core™ i9プロセッサ/Intel® Core™ i7プロセッサ/Intel® Core™ i5プロセッサ/Intel® Core™ i3プロセッサ/Intel® Pentium®プロセッサ/Intel® Celeron®プロセッサ* <ul style="list-style-type: none"> * 4 MB の Intel® Smart Cache を搭載した Intel® Celeron® G5xx5 ファミリー系プロセッサに限定されます。 (最新の CPU サポートリストについては、GIGABYTE の Web サイトにアクセスしてください。) ◆ L3 キャッシュは CPUにより異なります
	チップセット	<ul style="list-style-type: none"> ◆ Intel® Z590 Express チップセット
	メモリ	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 第11世代 Intel® Core™ i9/i7/i5プロセッサ： <ul style="list-style-type: none"> - DDR4 3200/3000/2933/2666/2400/2133 MHz メモリモジュールのサポート ◆ 第10世代 Intel® Core™ i9/i7プロセッサ： <ul style="list-style-type: none"> - DDR4 2933/2666/2400/2133 MHz メモリモジュールのサポート ◆ 第10世代 Intel® Core™ i5/i3/Pentium®/Celeron®プロセッサ： <ul style="list-style-type: none"> - DDR4 2666/2400/2133 MHz メモリモジュールのサポート ◆ 最大128 GB (32 GBの単一DIMM容量) のシステムメモリをサポートする 4 x DDR4 DIMMソケット ◆ デュアルチャンネルメモリ対応 ◆ ECC Un-buffered DIMM 1Rx8/2Rx8 メモリモジュールのサポート (非 ECC モードで動作) ◆ 非ECC Un-buffered DIMM 1Rx8/2Rx8/1Rx16 メモリモジュールのサポート ◆ XMP (エクストリームメモリプロファイル) メモリモジュールのサポート (サポートされる最新のメモリ速度とメモリモジュールについては、GIGABYTEのWebサイトを参照ください。)
	オンボードグラフィックス	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 統合グラフィックスプロセッサ-Intel® HDグラフィックスのサポート： <ul style="list-style-type: none"> - DisplayPort (x1)、4096x2304@60 Hzの最大解像度をサポートします。 * DisplayPortバージョン1.2とHDCP 2.3をサポートしています。 (グラフィックス出力の仕様は、CPU 毎の対応状況により異なる場合があります。)
	オーディオ	<ul style="list-style-type: none"> ◆ Realtek® オーディオコーデック ◆ ハイディフィニションオーディオ ◆ 2/4/5.1/7.1 チャンネル <ul style="list-style-type: none"> * 7.1チャンネルオーディオを構成するには、オーディオソフトウェアを開き、[デバイス詳細設定] 中の [再生デバイス] にて、最初にデフォルト設定を変更する必要があります。オーディオソフトウェアの詳細設定については、GIGABYTEのWebサイトをご覧ください。オーディオソフトウェアの詳細設定については、GIGABYTEのWebサイトをご覧ください。 ◆ S/PDIFアウトのサポート
	LAN	<ul style="list-style-type: none"> ◆ Realtek® GbE LAN チップ (1 Gbit/100 Mbit)

	拡張スロット	<ul style="list-style-type: none"> ◆ PCI Express x16 スロット (x1)、x16 で動作 (PCIEX16) <ul style="list-style-type: none"> * 最適のパフォーマンスを出すために、PCI Express グラフィックスカードを1つしか取り付けられない場合、PCIEX16スロットに必ず取り付けてください。(PCI Express x16スロットはPCI Express 4.0規格に準拠しています。)^(注) ◆ PCI Express x16 スロット (x2)、x4 で実行 (PCIEX4_1、PCIEX4_2) ◆ PCI Express x1 スロット (x2) (PCIEX1_1、PCIEX1_2) (PCIEX4 と PCIEX1 スロットは PCI Express 3.0 規格に準拠しています。)
	マルチグラフィックステクノロジ	<ul style="list-style-type: none"> ◆ AMD Quad-GPU CrossFire™ と 2-way AMD CrossFire™ テクノロジーのサポート
	ストレージインターフェイス	<ul style="list-style-type: none"> ◆ CPU: <ul style="list-style-type: none"> - M.2 コネクタ (x1) (Socket 3、M key、タイプ 2260/2280/22110 PCIe 4.0 x4/x2 SSD 対応) (M2P_CPU)^(注) ◆ チップセット: <ul style="list-style-type: none"> - M.2 コネクタ (x1) (Socket 3、M key、タイプ 2260/2280/22110 SATA と PCIe 3.0 x4/x2 SSD 対応) (M2A_SB) - SATA 6Gb/s コネクタ (x6) ◆ SATA RAID 0、RAID 1、RAID 5、および RAID 10 のサポート <ul style="list-style-type: none"> * M.2 および SATA コネクタでサポートされる構成については、「1-7 内部コネクタ」を参照してください。 ◆ Intel® Optane™ Memory Ready
	USB	<ul style="list-style-type: none"> ◆ チップセット: <ul style="list-style-type: none"> - USB 3.2 Gen 1 ポート (x8) (背面パネルに6つのポート、内部USBヘッダを通して2ポートが使用可能) - USB 2.0/1.1 ポート (x4) 内部USBヘッダ経由で使用可能
	内部コネクタ	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 24 ピン ATX メイン電源コネクタ (x1) ◆ 8 ピン ATX 12V 電源コネクタ (x1) ◆ 4 ピン ATX 12V 電源コネクタ (x1) ◆ CPU ファンヘッダ (x1) ◆ システムファンヘッダ (x3) ◆ Addressable LEDテープ用ヘッダ (x1) ◆ RGB LEDテープ用ヘッダ (x1) ◆ M.2 ソケット3 コネクタ (x2) ◆ SATA 6Gb/s コネクタ (x6) ◆ 前面パネルヘッダ (x1) ◆ 前面パネルオーディオヘッダ (x1) ◆ S/PDIF 出力ヘッダ (x1) ◆ USB 3.2 Gen 1 ヘッダ (x1) ◆ USB 2.0/1.1 ヘッダ (x2) ◆ Thunderbolt™ アドインカードコネクタ (x2) ◆ TPMモジュール用ヘッダ (x1) (GC-TPM2.0 SPI/GC-TPM2.0 SPI 2.0 モジュールのみ対応) ◆ シリアルポートヘッダ (x1) ◆ CMOSクリアジャンプ (x1) ◆ Q-Flash Plus ボタン (x1)

(注) 第11世代プロセッサのみ対応しています。

	背面パネルの コネクタ	<ul style="list-style-type: none"> ◆ PS/2 マウスポート (x1) ◆ PS/2 キーボードポート (x1) ◆ DisplayPort (x1) ◆ USB 3.2 Gen 1 ポート (x6) ◆ RJ-45ポート (x1) ◆ オーディオジャック (x3)
	I/O コント ローラー	<ul style="list-style-type: none"> ◆ iTE® I/O コントローラーチップ
	ハードウェア モニタ	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 電圧検知 ◆ 温度検知 ◆ ファン速度検知 ◆ ファン異常検知 ◆ ファン速度コントロール <ul style="list-style-type: none"> * ファン速度コントロール機能のサポートについては、取り付けたクーラーによって異なります。
	BIOS	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 256 Mbit フラッシュ (x1) ◆ 正規ライセンス版AMI UEFI BIOSを搭載 ◆ PnP 1.0a、DMI 2.7、WfM 2.0、SM BIOS 2.7、ACPI 5.0
	独自機能	<ul style="list-style-type: none"> ◆ APP Center のサポート <ul style="list-style-type: none"> * App Center で使用可能なアプリケーションは、マザーボードのモデルによって異なります。各アプリケーションのサポート機能もマザーボードのモデルによって異なります。 - @BIOS - EasyTune - Fast Boot - Game Boost - ON/OFF Charge - RGB Fusion - Smart Backup - System Information Viewer ◆ Q-Flash Plus のサポート ◆ Q-Flash のサポート ◆ Xpress Install のサポート
	バンドルされ たソフトウェア	<ul style="list-style-type: none"> ◆ Norton® インターネットセキュリティ (OEM バージョン) ◆ Realtek® 8118 Gaming LAN Bandwidth Control Utility
	オペレーティ ングシステム	<ul style="list-style-type: none"> ◆ Windows 10 64-bit のサポート
	フォームファ クタ	<ul style="list-style-type: none"> ◆ ATXフォームファクタ、30.5cm x 24.4cm

* GIGABYTEは、予告なしに製品仕様と製品関連の情報を変更する場合があります。



CPU、メモリモジュール、SSD、および M.2 デバイスのサポートリストについては、GIGABYTE の Web サイトにアクセスしてください。



アプリの最新バージョンをダウンロードするには、GIGABYTE の Web サイトのサポートヘルプページにアクセスしてください。

1-3 CPU を取り付ける

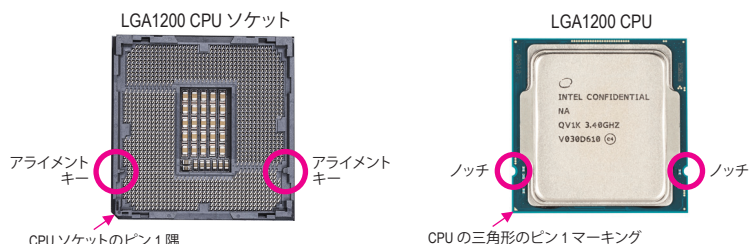


CPU を取り付ける前に次のガイドラインをお読みください:

- マザーボードが CPU をサポートしていることを確認してください。(最新の CPU サポートリストについては、GIGABYTE の Web サイトにアクセスしてください。)
- ハードウェアが損傷する原因となるため、CPU を取り付ける前に必ずコンピュータの電源をオフにし、コンセントから電源コードを抜いてください。
- CPU のピン 1 を探します。CPU は間違った方向には差し込むことができません。(または、CPU の両側のノッチと CPU ソケットのアライメントキーを確認します。)
- CPU の表面に熱伝導グリスを均等に薄く塗ります。
- CPU クーラーを取り付けずに、コンピュータの電源をオンにしないでください。CPU が損傷する原因となります。
- CPU の仕様に従って、CPU のホスト周波数を設定してください。ハードウェアの仕様を超えたシステムバスの周波数設定は周辺機器の標準要件を満たしていないため、お勧めできません。標準仕様を超えて周波数を設定したい場合は、CPU、グラフィックスカード、メモリ、ハードドライブなどのハードウェア仕様に従ってください。

CPU を取り付ける

マザーボード CPU ソケットのアライメントキーおよび CPU のノッチを確認します。



CPU を取り付ける前に CPU ソケットカバーを取り外さないで下さい。先に CPU を CPU ソケットに取り付けた後に、ロードプレートを元に戻すと自動的に CPU ソケットカバーは外れます。

1-4 メモリの取り付け



メモリを取り付ける前に次のガイドラインをお読みください:

- マザーボードがメモリをサポートしていることを確認してください。同じ容量、ブランド、速度、およびチップのメモリをご使用になることをお勧めします。(サポートされる最新のメモリ速度とメモリモジュールについては、GIGABYTE の Web サイトを参照ください。)
- ハードウェアが損傷する原因となるため、メモリを取り付ける前に必ずコンピュータの電源をオフにし、コンセントから電源コードを抜いてください。
- メモリモジュールは取り付け位置を間違えないようにノッチが設けられています。メモリモジュールは、一方向にしか挿入できません。メモリを挿入できない場合は、方向を変えてください。

デュアルチャンネルのメモリ設定

このマザーボードには4つのメモリソケットが装備されており、デュアルチャンネルテクノロジーをサポートします。メモリを取り付けた後、BIOS はメモリの仕様と容量を自動的に検出します。デュアルチャンネルメモリモードは、元のメモリバンド幅を2倍に広げます。



ハードウェア取り付けに関する詳細については、GIGABYTE の Web サイトにアクセスしてください。

4つのメモリスロットが2つのチャンネルに分けられ、各チャンネルには次のように2つのメモリスロットがあります：

- ▶ チャンネル A：DDR4_A1, DDR4_A2
- ▶ チャンネル B：DDR4_B1, DDR4_B2

	DDR4_A1	DDR4_A2	DDR4_B1	DDR4_B2
2つのモジュール	--	DS/SS	--	DS/SS
4つのモジュール	DS/SS	DS/SS	DS/SS	DS/SS

CPU制限により、デュアルチャンネルモードでメモリを取り付ける前に次のガイドラインをお読みください。

1. メモリモジュールが1枚のみ取り付けられている場合、デュアルチャンネルモードは有効になりません。
2. 2または4枚のモジュールでデュアルチャンネルモードを有効にしているとき、同じ容量、ブランド、速度、チップのメモリを使用するようにお勧めします。

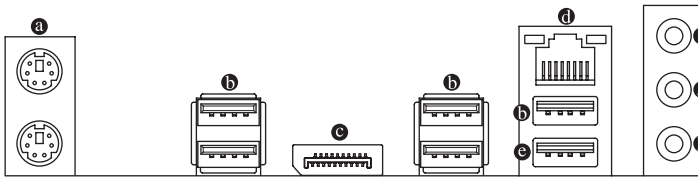
1-5 拡張カードを取り付ける



拡張カードを取り付ける前に次のガイドラインをお読みください：

- ・ 拡張カードがマザーボードをサポートしていることを確認してください。拡張カードに付属するマニュアルをよくお読みください。
- ・ ハードウェアが損傷する原因となるため、拡張カードを取り付ける前に必ずコンピュータの電源をオフにし、コンセントから電源コードを抜いてください。

1-6 背面パネルのコネクター



a PS/2 キーボードと PS/2 マウスポート

PS/2 マウスを上部ポート (緑)に、PS/2 キーボードを下部ポート (紫)に接続します。

b USB 3.2 Gen 1 ポート

USB 3.2 Gen 1 ポートは USB 3.2 Gen 1 仕様をサポートし、USB 2.0 仕様と互換性があります。このポートを USB デバイス用に使用します。

c DisplayPort

DisplayPortは、双方向音声送信をサポートする高品質デジタル画像処理とオーディオを提供します。DisplayPort は、HDCP 2.3 のコンテンツ保護メカニズムをサポートできます。このポートを使用して、DisplayPort をサポートするモニタに接続します。注：DisplayPort 技術は 4096x2304@60 Hz の最大解像度をサポートしますが、サポートされる実際の解像度は使用されるモニタによって異なります。



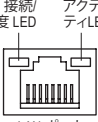
DisplayPortデバイスを取り付けた後、デフォルトのサウンド再生をDisplayPortに設定していることを確認してください。(項目名は、オペレーティングシステムによって異なります。)



- ・ 背面パネルコネクターに接続されたケーブルを取り外す際は、先に周辺機器からケーブルを取り外し、次にマザーボードからケーブルを取り外します。
- ・ ケーブルを取り外す際は、コネクターから真っ直ぐに引き抜いてください。ケーブルコネクター内部でショートする原因となるので、横に揺り動かさないでください。

④ RJ-45 LAN ポート

Gigabit イーサネット LAN ポートは、最大 1 Gbps のデータ転送速度のインターネット接続を提供します。以下は、LAN ポート LED の状態を表します。

 LAN ポート	接続/速度 LED:	接続/速度 LED:	アクティビティ LED:												
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>状態</th> <th>説明</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>オレンジ</td> <td>1 Gbps のデータ転送速度</td> </tr> <tr> <td>緑</td> <td>100 Mbps のデータ転送速度</td> </tr> <tr> <td>オフ</td> <td>10 Mbps のデータ転送速度</td> </tr> </tbody> </table>	状態	説明	オレンジ	1 Gbps のデータ転送速度	緑	100 Mbps のデータ転送速度	オフ	10 Mbps のデータ転送速度	<table border="1"> <thead> <tr> <th>状態</th> <th>説明</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>点滅</td> <td>データの送受信中です</td> </tr> <tr> <td>オン</td> <td>データを送受信していません</td> </tr> </tbody> </table>	状態	説明	点滅	データの送受信中です	オン
状態	説明														
オレンジ	1 Gbps のデータ転送速度														
緑	100 Mbps のデータ転送速度														
オフ	10 Mbps のデータ転送速度														
状態	説明														
点滅	データの送受信中です														
オン	データを送受信していません														

⑤ USB 3.2 Gen 1 ポート (Q-Flash Plus ポート)

USB 3.2 Gen 1 ポートは USB 3.2 Gen 1 仕様をサポートし、USB 2.0 仕様と互換性があります。このポートを USB デバイス用に使用します。Q-Flash Plus^(注)を使用する前に、このポートに USB フラッシュメモリを挿入してください。

⑥ ラインイン/リアスピーカーアウト (青)

ラインインジャックです。光ドライブ、ウォークマンなどのデバイスのラインインの場合、このオーディオ端子を使用します。

⑦ ラインアウト/フロントスピーカーアウト (緑)

ラインアウト端子です。ヘッドフォンまたは 2 チャンネルスピーカーの場合、このオーディオ端子を使用します。

⑧ マイクイン/センター/サブウーファースピーカーアウト (ピンク)

マイクイン端子です。

オーディオジャック設定:

ジャック	ヘッドフォン / 2 チャンネル	4 チャンネル	5.1 チャンネル	7.1 チャンネル
⑥ ラインイン/リアスピーカーアウト		✓	✓	✓
⑦ ラインアウト/フロントスピーカーアウト	✓	✓	✓	✓
⑧ マイクイン/センター/サブウーファースピーカーアウト			✓	✓
フロントパネルラインアウト/サイドスピーカーアウト				✓



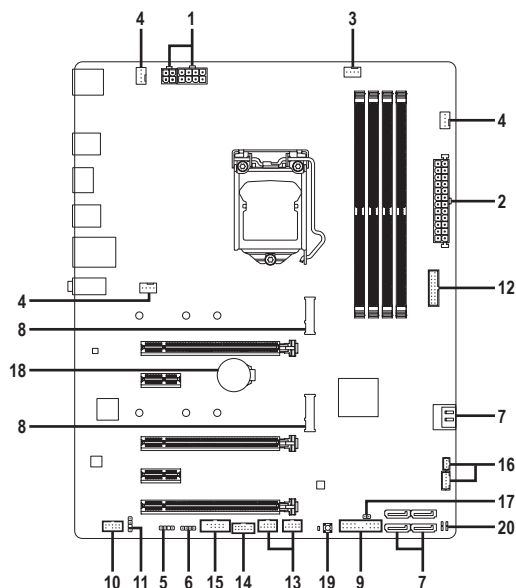
- オーディオのソフトウェアを使用して、オーディオジャックの機能を変更できます。
- 7.1 チャンネルオーディオを構成するには、オーディオソフトウェアを開き、[デバイス詳細設定]中の[再生デバイス]にて、最初にデフォルト設定を変更する必要があります。



オーディオソフトウェアの詳細設定については、GIGABYTEのWebサイトをご覧ください。

(注) Q-Flash Plus 機能を使用するには、GIGABYTEウェブサイトの「独自機能」ウェブページをご参照ください。

1-7 内部コネクタ



1) ATX_12V_2X2/ATX_12V_2X4	11) SPDIF_O
2) ATX	12) F_U32
3) CPU_FAN	13) F_USB1/F_USB2
4) SYS_FAN1/2/3	14) SPI_TPM
5) D_LED1	15) COM
6) LED_C1	16) THB_C1/THB_C2
7) SATA3 0/1/2/3/4/5	17) CLR_CMOS
8) M2P_CPU/M2A_SB	18) BAT
9) F_PANEL	19) QFLASH_PLUS
10) F_AUDIO	20) CPU/DRAM/VGA/BOOT




外部デバイスを接続する前に、以下のガイドラインをお読みください：

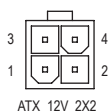
- まず、デバイスが接続するコネクタに準拠していることを確認します。
- デバイスを取り付ける前に、デバイスとコンピュータのパワーがオフになっていることを確認します。デバイスが損傷しないように、コンセントから電源コードを抜きます。
- デバイスを装着した後、コンピュータのパワーをオンにする前に、デバイスのケーブルがマザーボードのコネクタにしっかり接続されていることを確認します。

1/2) ATX_12V_2X2/ATX_12V_2X4/ATX (2x2、2x4 12V 電源コネクタと 2x12 メイン電源コネクタ)

電源コネクタを使用すると、電源装置はマザーボードのすべてのコンポーネントに安定した電力を供給することができます。電源コネクタを接続する前に、まず電源装置のパワーがオフになっていること、すべてのデバイスが正しく取り付けられていることを確認してください。電源コネクタは、正しい向きでしか取り付けができないように設計されています。電源装置のケーブルを正しい方向で電源コネクタに接続します。

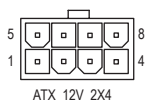
12V 電源コネクタは、主に CPU に電力を供給します。12V 電源コネクタが接続されていない場合、コンピュータは起動しません。

 拡張要件を満たすために、高い消費電力に耐えられる電源装置をご使用になることをお勧めします (500W以上)。必要な電力を供給できない電源装置をご使用になると、システムが不安定になったり起動できない場合があります。



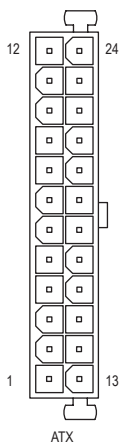
ATX_12V_2X2:

ピン番号	定義
1	GND
2	GND
3	+12V
4	+12V



ATX_12V_2X4:

ピン番号	定義	ピン番号	定義
1	GND (2x4ピン12Vのみ)	5	+12V (2x4ピン12Vのみ)
2	GND (2x4ピン12Vのみ)	6	+12V (2x4ピン12Vのみ)
3	GND	7	+12V
4	GND	8	+12V



ATX:

ピン番号	定義	ピン番号	定義
1	3.3V	13	3.3V
2	3.3V	14	-12V
3	GND	15	GND
4	+5V	16	PS_ON (ソフト オン/オフ)
5	GND	17	GND
6	+5V	18	GND
7	GND	19	GND
8	電源良好	20	NC
9	5VSB (スタンバイ +5V)	21	+5V
10	+12V	22	+5V
11	+12V (2x12 ピン ATX 専用)	23	+5V (2x12 ピン ATX 専用)
12	3.3V (2x12 ピン ATX 専用)	24	GND (2x12 ピン ATX 専用)

3/4) CPU_FAN/SYS_FAN1/2/3 (ファンヘッダ)

このマザーボードのファンヘッダはすべて4ピンです。ほとんどのファンヘッダは、誤挿入防止設計が施されています。ファンケーブルを接続するとき、正しい方向に接続してください(黒いコネクタワイヤはアース線です)。速度コントロール機能を有効にするには、ファン速度コントロール設計のファンを使用する必要があります。最適の放熱を実現するために、PCケース内部にシステムファンを取り付けることをお勧めします。



CPU_FAN/SYS_FAN2



SYS_FAN1/SYS_FAN3

ピン番号	定義
1	GND
2	電圧速度制御
3	検知
4	PWM速度制御

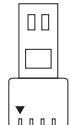
コネクタ	CPU_FAN	SYS_FAN1-3
最大電流	2A	2A
最大電力	24W	24W



- CPUとシステムを過熱から保護するために、ファンケーブルをファンヘッダに接続していることを確認してください。冷却不足はCPUが損傷したり、システムがハングアップする原因となります。
- これらのファンヘッダは設定ジャンプブロックではありません。ヘッダにジャンパキャップをかぶせないでください。

5) D_LED1 (Addressable LEDテープ用ヘッダ)

ヘッダピンを使用して、最大定格電力5A (5V) およびLED最大1000個の標準5050 addressable LEDテープを接続できます。



Addressable LED
テープ

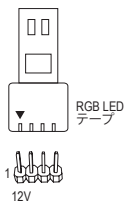


ピン番号	定義
1	V (5V)
2	Data
3	ピンなし
4	GND

Addressable LEDテープをヘッダーに接続します。LEDテープ側の電源ピン (プラグの三角印) をaddressable LEDテープヘッダのピン1に接続する必要があります。誤って接続すると、LEDテープが損傷する可能性があります。

6) LED_C1 (RGB LEDテープヘッド)

このヘッドは、標準的なRGB LEDテープ (12V/G/R/B)を使用することができます。また、最大2メートルの長さのケーブルと最大電力2A (12V)までサポートしています。



ピン番号	定義
1	12V
2	G
3	R
4	B

RGB LEDテープをヘッドに接続します。LEDテープの電源ピン (プラグの三角印) は、このヘッドのピン1 (12V) に接続する必要があります。誤って接続すると、LEDテープが損傷する可能性があります。



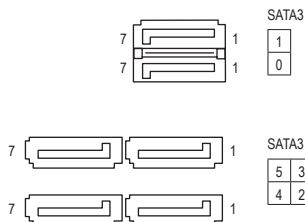
LEDテープの点灯消灯方法については、GIGABYTEウェブサイトの「独自機能」ウェブページをご参照ください。



デバイスを取り付ける前に、デバイスとコンピュータのパワーがオフになっていることを確認します。デバイスが損傷しないように、コンセントから電源コードを抜きます。

7) SATA3 0/1/2/3/4/5 (SATA 6Gb/sコネクタ)

SATA コネクタはSATA 6Gb/s に準拠し、SATA 3Gb/s および SATA 1.5Gb/s との互換性を有しています。それぞれの SATA コネクタは、単一の SATA デバイスをサポートします。Intel® チップセットは、RAID 0、RAID 1、RAID 5、および RAID 10 をサポートします。RAIDアレイの構成の説明については、第3章「RAID セットを設定する」を参照してください。



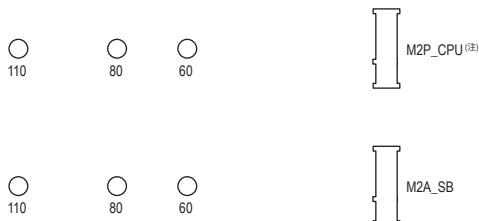
ピン番号	定義
1	GND
2	TXP
3	TXN
4	GND
5	RXN
6	RXP
7	GND



SATAポートホットプラグを有効にするには、第2章を参照してください。「BIOSセットアップ」、「Settings\IO Ports\SATA And RST Configuration」を参照してください。

8) M2P_CPU^(注)/M2A_SB (M.2 ソケット3 コネクタ)

M.2コネクタはM.2 SATA SSDまたはM.2 PCIe SSDをサポートし、RAID 構成をサポートします。M.2 PCIe SSD を M.2 SATA SSD または SATA ハードドライブを用いて RAID セットを構築することはできません。RAIDアレイの構成の説明については、第3章「RAID セットを設定する」を参照してください。



M.2コネクタにM.2対応SSDに増設する場合、以下の手順に従ってください。

ステップ1:

M.2 SSDドライブの長さに基づいて、適切な取り付け穴を見つけます。必要に応じて、ネジ受けを目的の取り付け穴に移動します。コネクタに斜めの角度でM.2対応SSDをスライドさせます。

ステップ2:

M.2 SSD を押し下げてから、付属のネジを使ってコネクタに固定します。

M.2、および SATAのコネクタをご使用の際の注意事項：

SATA コネクタの利用可能数は、M.2 ソケットに取り付けられているデバイスの種類によって影響を受ける可能性があります。M2A_SBコネクタは、SATA3 1コネクタとバンド幅を共有します。詳細に関しては、次の表をご参照ください。

• M2P_CPU：

M.2 SSDの種類 \ コネクタ	SATA3 0	SATA3 1	SATA3 2	SATA3 3	SATA3 4	SATA3 5
M.2 PCIe SSD *	✓	✓	✓	✓	✓	✓
M.2 SSDを使用していない場合	✓	✓	✓	✓	✓	✓

✓：利用可能、✕：利用不可

* M2P_CPU コネクタはPCIe SSDのみをサポートします。

• M2A_SB：

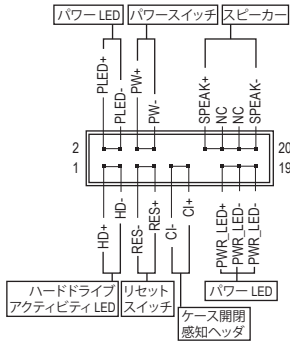
M.2 SSDの種類 \ コネクタ	SATA3 0	SATA3 1	SATA3 2	SATA3 3	SATA3 4	SATA3 5
M.2 SATA SSD	✓	✕	✓	✓	✓	✓
M.2 PCIe SSD	✓	✓	✓	✓	✓	✓
M.2 SSDを使用していない場合	✓	✓	✓	✓	✓	✓

✓：利用可能、✕：利用不可

(注) 第 11 世代プロセッサのみ対応しています。M2P_CPU コネクタで RAID 構成を設定する場合は、必ず Intel® SSD を使用してください。

9) F_PANEL (前面パネルヘッダ)

下記のピン配列に従い、パワースイッチ、リセットスイッチ、スピーカー、PCケース開閉感知ヘッダ、ケースのインジケータ（パワーLEDやHDD LEDなど）を接続します。接続する際には、＋とーのピンに注意してください。



- **PLED/PWR_LED** (電源LED、黄/紫):

システムステータス	LED
S0	オン
S3/S4/S5	オフ

PCケース前面パネルの電源ステータスインジケータに接続します。システムが作動しているとき、LED はオンになります。システムが S3/S4 スリープ状態に入っているとき、またはパワーがオフになっているとき (S5)、LED はオフになります。

- **PW** (パワースイッチ、赤):

PCケース前面パネルの電源ステータスインジケータに接続します。パワースイッチを使用してシステムのパワーをオフにする方法を設定できます (詳細については、第 2 章、「BIOS セットアップ」、「Settings\Platform Power」を参照してください)。

- **SPEAK** (スピーカー、オレンジ):

PCケースの前面パネル用スピーカーに接続します。システムは、ビープコードを鳴らすことでシステムの起動ステータスを報告します。システム起動時に問題が検出されない場合、短いビープ音が 1 度鳴ります。

- **HD** (ハードドライブアクティビティ LED、青):

PCケース前面パネルのハードドライブアクティビティ LED に接続します。ハードドライブがデータの読み書きを行っているとき、LED はオンになります。

- **RES** (リセットスイッチ、緑):

PCケース前面パネルのリセットスイッチに接続します。コンピュータがフリーズし通常の再起動を実行できない場合、リセットスイッチを押してコンピュータを再起動します。

- **CI** (PCケース開閉感知ヘッダ、グレー):

PCケースカバーが取り外されている場合、PCケースの検出可能なPCケース開閉感知スイッチ/センサーに接続します。この機能は、PCケース開閉感知スイッチセンサーを搭載したPCケースを必要とします。

- **NC** (オレンジ): 接続なし。



前面パネルのデザインは、ケースによって異なります。前面パネルモジュールは、パワースイッチ、リセットスイッチ、電源 LED、ハードドライブアクティビティ LED、スピーカーなどで構成されています。ケース前面パネルモジュールをこのヘッダに接続しているとき、ワイヤ割り当てとピン割り当てが正しく一致していることを確認してください。

10) F_AUDIO (前面パネルオーディオヘッダ)

フロントパネルオーディオヘッダは、High Definition audio (HD)をサポートします。PCケース前面パネルのオーディオモジュールをこのヘッダに接続することができます。モジュールコネクタのワイヤ割り当てが、マザーボードヘッダのピン割り当てに一致していることを確認してください。モジュールコネクタとマザーボードヘッダ間の接続が間違っていると、デバイスは作動せず損傷することがあります。



ピン番号	定義	ピン番号	定義
1	MIC2_L	6	検知
2	GND	7	FAUDIO_JD
3	MIC2_R	8	ピンなし
4	NC	9	LINE2_L
5	LINE2_R	10	検知



PCケースの中には、前面パネルのオーディオモジュールを組み込んで、単一コネクタの代わりに各ワイヤのコネクタを分離しているものもあります。ワイヤ割り当てが異なる前面パネルのオーディオモジュールの接続方法の詳細については、PCケースメーカーにお問い合わせください。

11) SPDIF_O (S/PDIF出力用ヘッダ)

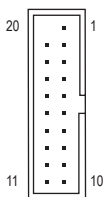
このヘッダーはS/PDIFデジタル出力に対応しており、S/PDIFデジタル・オーディオケーブルを接続することで、マザーボードから対応するオーディオ機器にデジタル・オーディオを出力することができます。デジタル・オーディオケーブルの接続については、お使いのオーディオ機器のマニュアルをよくお読みください。



ピン番号	定義
1	5VDUAL
2	ピンなし
3	SPDIFO
4	GND

12) F_U32 (USB 3.2 Gen 1 ヘッダ)

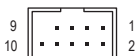
ヘッダはUSB 3.2 Gen 1およびUSB 2.0仕様に準拠し、2つのUSBポートが装備されています。USB 3.2 Gen 1対応2ポートを装備するオプションの3.5"フロントパネルのご購入については、販売店にお問い合わせください。



ピン番号	定義	ピン番号	定義	ピン番号	定義
1	VBUS	8	D1-	15	SSTX2-
2	SSRX1-	9	D1+	16	GND
3	SSRX1+	10	NC	17	SSRX2+
4	GND	11	D2+	18	SSRX2-
5	SSTX1-	12	D2-	19	VBUS
6	SSTX1+	13	GND	20	ピンなし
7	GND	14	SSTX2+		

13) F_USB1/F_USB2 (USB 2.0/1.1 ヘッダ)

ヘッダはUSB 2.0/1.1仕様に準拠しています。各USBヘッダは、オプションのUSBブラケットを介して2つのUSBポートを提供できます。オプションのUSBブラケットを購入する場合は、販売店にお問い合わせください。



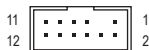
ピン番号	定義	ピン番号	定義
1	電源 (5V)	6	USB DY+
2	電源 (5V)	7	GND
3	USB DX-	8	GND
4	USB DY-	9	ピンなし
5	USB DX+	10	NC



- IEEE 1394 ブラケット (2x5 ピン) ケーブルを USB 2.0/1.1 ヘッダに差し込まないでください。
- USB ブラケットを取り付ける前に、USB ブラケットが損傷しないように、コンピュータの電源をオフにしてからコンセントから電源コードを抜いてください。

14) SPI_TPM (TPMモジュール用ヘッダ)

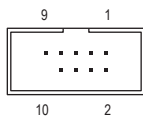
SPI TPM (TPMモジュール) をこのヘッダに接続できます。



ピン番号	定義	ピン番号	定義
1	データ出力	7	チップ選択
2	電源 (3.3V)	8	GND
3	ピンなし	9	IRQ
4	NC	10	NC
5	データ入力	11	NC
6	CLK	12	RST

15) COM (シリアルポートヘッダ)

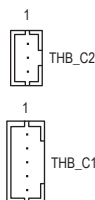
COM ヘッダは、オプションの COM ポートケーブルを介して 1 つのシリアルポートを提供します。オプションの COM ポートケーブルを購入する場合、販売店にお問い合わせください。



ピン番号	定義	ピン番号	定義
1	NDCD-	7	NDSR-
2	NSIN	8	NRTS-
3	NSOUT	9	NCTS-
4	NDTR-	10	NRI-
5	GND	11	ピンなし

16) THB_C1/THB_C2 (Thunderbolt™ アドインカードコネクタ)

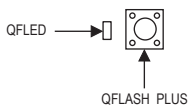
これらの端子はGIGABYTE Thunderbolt™ アドインカード用です。



Thunderbolt™ アドインカードをサポートします。

17) QFLASH_PLUS (Q-Flash Plus ボタン)

Q-Flash Plus では、システムの電源が切れているとき (S5シャットダウン状態) に BIOS を更新することができます。最新の BIOS を USB メモリに保存して専用ポートに接続すると、Q-Flash Plus ボタンを押すだけで自動的に BIOS を更新できます。QFLED は、BIOS のマッチングおよび更新作業が開始されると点滅し、メイン BIOS の書換が完了すると点滅を停止します。




Q-Flash Plus 機能を使用するには、GIGABYTEウェブサイトの「独自機能」ウェブページをご参照ください。

18) CLR_CMOS (CMOSクリアジャンパー)

このジャンパーを使用してBIOS設定をクリアするとともに、CMOS値を出荷時設定にリセットします。CMOS値を初期化するには、ドライバーのような金属製品を使用して2つのピンに数秒間触れます。

 オープン：Normal

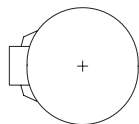
 ショート：CMOSのクリア



- CMOS値を初期化する前に、常にコンピュータの電源をオフにし、コンセントから電源コードを抜いてください。
- システムが再起動した後、BIOS設定を工場出荷時に設定するか、手動で設定してください (Load Optimized Defaults 選択) BIOS設定を手動で設定します (BIOS設定については、第2章「BIOSセットアップ」を参照してください)。

19) BAT (バッテリー)

バッテリーは、コンピュータがオフになっているときCMOSの値 (BIOS設定、日付、および時刻情報など) を維持するために、電力を提供します。バッテリーの電圧が低レベルまで下がったら、バッテリーを交換してください。CMOS値が正確に表示されなかったり、失われる可能性があります。



バッテリーを取り外すと、CMOS値を消去できます：

- コンピュータの電源をオフにし、電源コードを抜きます。
- バッテリーホルダからバッテリーをそと取り外し、1分待ちます。(または、ドライバーのような金属物体を使用してバッテリーホルダの+と-の端子に触れ、5秒間ショートさせます。)
- バッテリーを交換します。
- 電源コードを差し込み、コンピュータを再起動します。



- バッテリーを交換する前に、常にコンピュータの電源をオフにしてから電源コードを抜いてください。
- バッテリーを同等のバッテリーと交換します。誤ったバッテリーモデルに交換した場合、ご使用の機器が破損する場合がありますのでご注意ください。
- バッテリーを交換できない場合、またはバッテリーのモデルがはっきり分からない場合、購入店または販売店にお問い合わせください。
- バッテリーを取り付けるとき、バッテリーのプラス側 (+) とマイナス側 (-) の方向に注意してください (プラス側を上に向ける必要があります)。
- 使用済みのバッテリーは、地域の環境規制に従って処理してください。

20) CPU/DRAM/VGA/BOOT (ステータス LED)

ステータスLEDは、システムの電源投入後にCPU、メモリ、グラフィックスカード、およびオペレーティングシステムが正常に動作状態を表示します。CPU/DRAM/VGALEDが点灯している場合は、対応するデバイスが正常に動作していないことを意味します。BOOTLEDが点灯している場合、オペレーティングシステムを読み込んでいないことを意味します。

	□ □
	□ □
CPU	DRAM
VGA	BOOT

CPU： CPUステータスLED
DRAM： メモリ・ステータスLED
VGA： グラフィックスカード・ステータスLED
BOOT： オペレーティングシステムステータスLED

第 2 章 BIOS セットアップ

BIOS (Basic Input and Output System) は、マザーボード上の CMOS にあるシステムのハードウェアのパラメータを記録します。主な機能には、システム起動、システムパラメータの保存、およびオペレーティングシステムの読み込みなどを行うパワー オンセルフ テスト (POST) の実行などがあります。BIOS には、ユーザーが基本システム構成設定の変更または特定のシステム機能の有効化を可能にする BIOS セットアッププログラムが含まれています。

電源をオフにすると、CMOS の設定値を維持するためマザーボードのバッテリーが CMOS に必要な電力を供給します。

BIOS セットアッププログラムにアクセスするには、電源オン時の POST 中に <Delete> キーを押します。BIOS をアップグレードするには、GIGABYTE Q-Flash または @BIOS ユーティリティのいずれかを使用します。

- Q-Flash により、ユーザーはオペレーティングシステムに入ることなく BIOS のアップグレードまたはバックアップを素早く簡単に行えます。
- @BIOS は、インターネットから BIOS の最新バージョンを検索しダウンロードするとともに BIOS を更新する Windows ベースのユーティリティです。



- BIOS の更新は潜在的に危険を伴うため、BIOS の現在のバージョンを使用しているときに問題が発生していない場合、BIOS を更新しないことをお勧めします。BIOS の更新は注意して行ってください。BIOS の不適切な更新は、システムの誤動作の原因となります。
- システムの不安定またはその他の予期しない結果を防ぐために、初期設定を変更しないことをお勧めします (必要な場合を除く)。誤った BIOS 設定は、システムは起動できません。そのようなことが発生した場合は、CMOS 値を既定値にリセットしてみてください。(CMOS 値を消去する方法については、この章の「Load Optimized Defaults」セクションまたは第 1 章にあるバッテリーまたは CMOS ジャンパの消去の概要を参照してください。)

2-1 起動画面

コンピュータが起動するとき、次の起動ロゴ画面が表示されます。



<F2>キーを使用することにより、二つの異なるBIOSのモードを切り替えることができます。Easy Modelは、迅速に現在のシステム情報を表示したり、最適なパフォーマンスを引き出すために調整を行うことができます。Easy Modeでは、マウスを使用して設定や設定画面項目間の移動を行うことができます。Advanced Modelは、詳細なBIOS設定をすることができます。キーボードの矢印キーを押すことにより設定項目を切り替えることができ、<Enter>を押すことでサブメニューに入ります。また、マウスを使用して項目に選択することもできます。



- システムが安定しないときは、**Load Optimized Defaults** を選択してシステムをその既定値に設定します。
- 本章で説明された BIOS セットアップメニューは参考用です、項目は、BIOS のバージョンにより異なります。

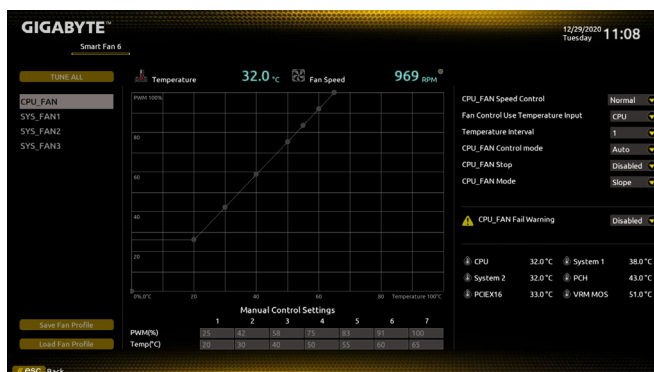
2-2 メインメニュー



Advanced Mode のファンクションキー

<←><→>	選択バーを移動させてセットアップメニューを選択します。
<↑><↓>	選択バーを移動させてメニュー上の設定項目を選択します。
<Enter>/Double Click	コマンドを実行するかまたはメニューに入ります。
<+>/<Page Up>	数値を上昇させるかまたは変更を行います。
<->/<Page Down>	数値を下降させるかまたは変更を行います。
<F1>	ファンクションキーについての説明を表示します。
<F2>	Easy Mode に切り替えます
<F3>	現在の BIOS 設定をプロファイルに保存する。
<F4>	以前に作成したプロファイルから BIOS 設定をロードします。
<F5>	現在のメニュー用に前の BIOS 設定を復元します。
<F6>	Smart Fan 6 の画面を表示する。
<F7>	現在のメニュー用に最適化された BIOS の初期設定を読み込みます。
<F8>	Q-Flash Utility にアクセスします。
<F10>	すべての変更を保存し、BIOS セットアッププログラムを終了します。
<F11>	Favorites (お気に入り) サブメニューに切り替える。
<F12>	現在の画面を画像としてキャプチャし、USB ドライブに保存します。
<Insert>	お気に入りのオプションを追加または削除する。
<Ctrl>+<S>	取り付けられているメモリの情報を表示します。
<Esc>	メインメニュー：BIOS セットアッププログラムを終了します。 サブメニュー：現在のサブメニューを終了します。

2-3 Smart Fan 6



ファンクションキー<F6>を使用して、この画面にすばやく切り替えます。この画面では、各ファンヘッドのファン速度関連の設定や、システム/CPUの温度監視を行うことができます。

☞ TUNE ALL

現在の設定をすべてのファンヘッダーに適用します。

☞ Temperature

選択された領域の、現在の温度を表示します。

☞ Fan Speed

現在のファン速度を表示します。

☞ Fan Speed Control

ファン速度コントロール機能を有効にして、ファン速度を調整します。

▶ Normal 温度に従って異なる速度でファンを動作させることができます。システム要件に基づいて、System Information Viewerでファン速度を調整することができます。(既定値)

▶ Silent ファンを低速度で作動します。

▶ Manual グラフ上の基準点をドラッグしてファンの回転数を調整することができます。またはEZ Tuning機能を使用することもできます。基準点の位置を調整した後、Applyを押すと、自動的にカーブの傾きが計算されます。

▶ Full Speed ファンを全速で作動します。

☞ Fan Control Use Temperature Input

ファン速度コントロール用の基準温度を選択できます。

☞ Temperature Interval

ファン速度変動用の温度間隔を選択できます。

☞ FAN Control Mode

▶ Auto BIOSは、取り付けられたファンのタイプを自動的に検出し、最適の制御モードを設定します。(既定値)

▶ Voltage 電圧モードは、3ピンのファンです。

▶ PWM PWMモードは、4ピンのファンです。

☞ FAN Stop

Fan Stop 機能を有効または無効設定することができます。温度曲線を使用して温度制限を設定できます。ファンは、温度が限界値より低いと動作を停止します。(既定値: Disabled)

☞ FAN Mode

ファンの動作モードを設定します。

▶ Slope 温度に応じてファンの回転数をリニアに調整します。(既定値)

▶ Stair 温度に応じてファンの回転数を段階的に調整します。

⇨ **FAN Fail Warning**

ファンが接続されているか失敗したかで、システムは警告を出します。警告があった場合、ファンの状態またはファンの接続を確認してください。(既定値: Disabled)

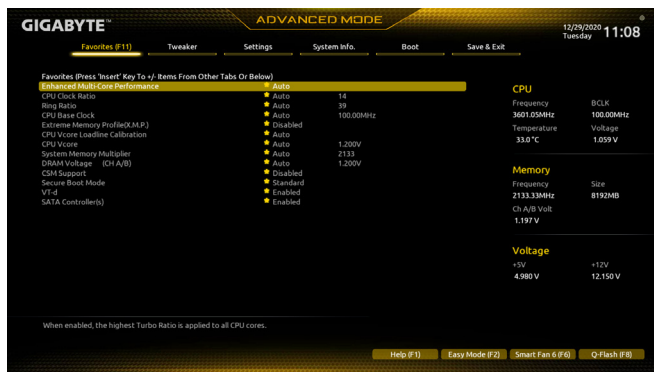
⇨ **Save Fan Profile**

この機能により、現在の設定をプロファイルに保存できるようになります。BIOS上のプロファイルを保存するか、**Select File in HDD/FDD/USB** を選択して、ストレージデバイスにプロファイルを保存することができます。

⇨ **Load Fan Profile**

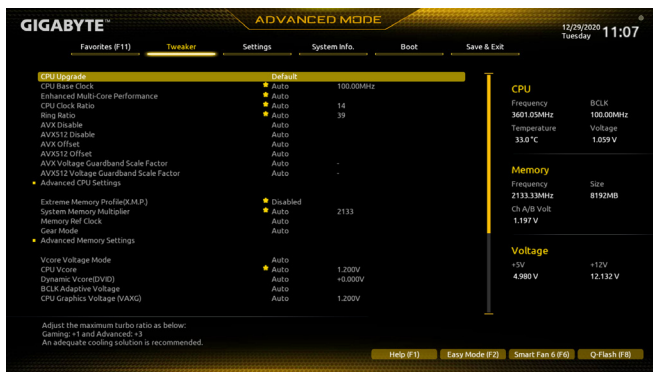
この機能を使用すると、BIOS設定を再設定する手間を省き、以前に保存したBIOS上のプロファイルをロードすることができます。または、**Select File in HDD/FDD/USB** を選択して、ストレージデバイスからプロファイルをロードすることができます。

2-4 Favorites (F11)



よく使うオプションをお気に入り設定し、<F11>キーを押すと、すべてのお気に入りオプションがあるページにすばやく切り替えることができます。お気に入りのオプションを追加または削除するには、元のページに移動してオプションの<Insert>を押します。「お気に入り」に設定すると、オプションに星印が付きます。

2-5 Tweaker



オーバークロック設定による安定動作については、システム全体の設定によって異なります。オーバークロック設定を間違えて設定して動作させるとCPU、チップセット、またはメモリが損傷し、これらのコンポーネントの耐久年数が短くなる原因となります。このページは上級ユーザー向けであり、システムの不安定や予期せぬ結果を招く場合があるため、既定値設定を変更しないことをお勧めします。(誤ったBIOS設定をしますと、システムは起動できません。そのような場合は、CMOS 値を消去して既定値にリセットしてみてください。)

🔍 CPU Upgrade

CPUの周波数を設定できます。使用するCPUによって、結果は異なる場合があります。オプション: Default と Gaming Profile。(既定値: Default)

🔍 CPU Base Clock

CPUベースクロックを0.01 MHz刻みで手動で設定します。(既定値: Auto)
重要: CPU仕様に従ってCPU周波数を設定することを強くお勧めします。

🔍 PVD Ratio Threshold Override^(注)

非常に高いDCO周波数に起因する「PLLバンディング」状態を低減することで、極端なBCLK OC下でのパフォーマンスを向上させるかどうかを判断できます。(既定値: Auto)

🔍 Enhanced Multi-Core Performance

CPUをターボICの速度で動作させるかどうかを決定します。(既定値: Auto)

🔍 CPU Clock Ratio

取り付けたCPUのクロック比を変更します。調整可能範囲は、取り付けのCPUによって異なります。

🔍 Ring Ratio

CPUのUncore ratioを設定できます。調整可能範囲は、使用されるCPUによって異なります。(既定値: Auto)

🔍 IGP Ratio^(注)

Graphics Ratioを設定できます。(既定値: Auto)

🔍 AVX Disable^(注)

AVXをサポートするCPUでAVX命令セットを無効にすることができます。(既定値: Auto)

🔍 AVX512 Disable^(注)

AVX-512をサポートしているCPUのAVX-512命令セットを無効にすることができます。(既定値: Auto)

🔍 AVX Offset^(注)

プロセッサがAVXワークロードを実行すると、CPUクロック比は所望のAVXオフセット値によって減少します。例えば、この値が3に設定されている場合、AVX命令を実行すると、CPUクロック比は3だけ減少します。(既定値: Auto)

(注) この機能をサポートするCPUを取り付けている場合のみ、この項目が表示されます。Intel® CPUの固有機能の詳細については、IntelのWebサイトにアクセスしてください。

- **AVX512 Offset** ^(注)
プロセッサが AVX-512 ワークロードを実行すると、CPU クロック比率は、所望の AVX-512 オフセット値によって減少します。例えば、値が3に設定されている場合（この値はAVXオフセット値以上でなければなりません）、AVX-512命令を実行すると、CPUクロック比は3だけ減少します。（既定値：Auto）
- **AVX Voltage Guardband Scale Factor** ^(注)
標準のAVX電圧を下げることができます。（既定値：Auto）
- **AVX512 Voltage Guardband Scale Factor** ^(注)
標準の AVX-512 電圧を下げることができます。（既定値：Auto）
- **Advanced CPU Settings**
 - **Core Fused Max Core Ratio** ^(注)
各コアの最高周波数を表示します。
 - **CPU Over Temperature Protection** ^(注)
TJ Max offset値を微調整できます。（既定値：Auto）
 - **FCLK Frequency for Early Power On** ^(注)
FCLKの周波数を設定できます。オプション：Normal(800Mhz)、1GHz、400MHz。（既定値：1GHz）
 - **Hyper-Threading Technology**
この機能をサポートする Intel® CPU 使用時にマルチスレッディングテクノロジーの有効/無効を切り替えます。この機能は、マルチプロセッサ モードをサポートするオペレーティングシステムでのみ動作します。Auto では、BIOS がこの設定を自動的に設定します。（既定値：Auto）
 - **No. of CPU Cores Enabled**
使用するCPUコアを選択します。（選択可能なCPUコア数については、CPUによって異なります。）Auto では、BIOS がこの設定を自動的に設定します。（既定値：Auto）
 - **Intel(R) Speed Shift Technology (Intel® Speed Shift Technology)** ^(注)
Intel® Speed Shift Technology の有効/無効を切り替えます。この機能を有効化すると、プロセッサの周波数がより速く上昇し、システムの反応が向上します。（既定値：Enabled）
 - **CPU Thermal Monitor** ^(注)
CPU 過熱保護機能である Intel® Thermal Monitor 機能の有効/無効を切り替えます。有効になっているとき、CPUが過熱すると、CPU コア周波数と電圧が下がります。Auto では、BIOS がこの設定を自動的に設定します。（既定値：Auto）
 - **Ring to Core offset (Down Bin)**
CPU Ring ratioのオートダウン機能を無効にするかどうかを決定できます。Auto では、BIOS がこの設定を自動的に設定します。（既定値：Auto）
 - **CPU EIST Function** ^(注)
Enhanced Intel® Speed Step 技術 (EIST) の有効/無効を切り替えます。CPU負荷によっては、Intel® EIST 技術はCPU電圧とコア周波数をダイナミックかつ効率的に下げ、消費電力と熱発生量を低下させます。Auto では、BIOS がこの設定を自動的に設定します。（既定値：Auto）
 - **Race To Halt (RTH)** ^(注)/**Energy Efficient Turbo** ^(注)
CPU省電力関連設定を有効または無効にします。（既定値：Auto）
 - **Intel(R) Turbo Boost Technology** ^(注)
Intel® CPU Turbo Boost テクノロジー機能の設定をします。Autoでは、BIOSがこの設定を自動的に設定できます。（既定値：Auto）
 - **Intel(R) Turbo Boost Max Technology 3.0** ^(注)
Intel® Turbo Boost Max Technology 3.0の有効/無効の設定をすることができます。Intel® Turbo Boost Max Technology 3.0 は、一番パフォーマンスの良い CPU コアが自動的に識別され、そのコアに手動でワークロードを設定することができます。また、各コアの周波数を調整することも可能です。（既定値：Enabled）

(注) この機能をサポートする CPU を取り付けている場合のみ、この項目が表示されます。Intel® CPU の固有機能の詳細については、Intel の Web サイトにアクセスしてください。

- **CPU Flex Ratio Override**
CPU Flex Ratio を有効または無効にします。CPU Clock Ratio が Auto に設定されている場合、CPU Clock Ratio の最大値は CPU Flex Ratio の設定内容に基づいて設定されます。(既定値: Disabled)
- **CPU Flex Ratio Settings**
CPU Flex Ratio を設定することができます。調整可能な範囲は、CPU により異なる場合があります。
- **Frequency Clipping TVB^(注)**
Thermal Velocity Boost によって開始される自動CPU周波数低減を有効または無効にできます。Auto では、BIOS がこの設定を自動的に設定します。(既定値: Auto)
- **Voltage reduction initiated TVB^(注)**
Thermal Velocity Boost によって開始される自動CPU電圧低下を有効または無効にできます。Auto では、BIOS がこの設定を自動的に設定します。(既定値: Auto)
- ▼ **Active Turbo Ratios**
- **Turbo Ratio (Core Active)**
さまざまな数のアクティブなコアに対して、CPU Turbo比を設定できます。Auto では、CPU仕様に従って CPU Turbo比を設定します。Active Turbo Ratios が Manual に設定されている場合のみ、この項目を構成できます。(既定値: Auto)
- ▼ **Per Core HT Disable Setting**
- **HT Disable^(注)**
各CPUコアのHT機能を無効にするかどうかを設定できます。Per Core HT Disable Setting が Manual に設定されている場合のみ、この項目を構成できます。(既定値: Disabled)
- ▼ **C-States Control**
- **CPU Enhanced Halt (C1E)**
システム一時停止状態時の省電力機能で、Intel® CPU Enhanced Halt (C1E) 機能の有効/無効を切り替えます。有効になっているとき、CPU コア周波数と電圧は下げられ、システムの停止状態の間、消費電力を抑えます。Auto では、BIOS がこの設定を自動的に設定します。C-States Control が Enabled に設定されている場合のみ、この項目を設定できます。(既定値: Auto)
- **C3 State Support^(注)**
システムが停止状態の際、CPU の C3 モード動作の有効/無効の設定ができます。有効になっているとき、CPU コア周波数と電圧は下げられ、システムの停止状態の間、消費電力を抑えます。C3 状態は、C1 より省電力状態がはるかに強化されています。Auto では、BIOS がこの設定を自動的に設定します。C-States Control が Enabled に設定されている場合のみ、この項目を設定できます。(既定値: Auto)
- **C6/C7 State Support**
システムが停止状態の際、CPU の C6/C7 モード動作の有効/無効の設定ができます。有効になっているとき、CPU コア周波数と電圧は下げられ、システムの停止状態の間、消費電力を抑えます。C6/C7 状態は、C3 より省電力状態がはるかに強化されています。Auto では、BIOS がこの設定を自動的に設定します。C-States Control が Enabled に設定されている場合のみ、この項目を設定できます。(既定値: Auto)
- **C8 State Support^(注)**
システムが停止状態の際、CPU の C8 モード動作の有効/無効の設定ができます。有効になっているとき、CPU コア周波数と電圧は下げられ、システムの停止状態の間、消費電力を抑えます。C8 状態は、C6/C7 より省電力状態がはるかに強化されています。Auto では、BIOS がこの設定を自動的に設定します。C-States Control が Enabled に設定されている場合のみ、この項目を設定できます。(既定値: Auto)

(注) この機能をサポートする CPU を取り付けている場合のみ、この項目が表示されます。Intel® CPU の固有機能の詳細については、Intel の Web サイトにアクセスしてください。

- ☞ **C10 State Support** ^(注1)
 システムが停止状態の際、CPUのC10モード動作の有効/無効の設定ができます。有効になっているとき、CPU コア周波数と電圧は下げられ、システムの停止状態の間、消費電力を抑えます。C10状態は、C8 より省電力状態がはるかに強化されています。**Auto** では、BIOS がこの設定を自動的に設定します。**C-States Control** が **Enabled** に設定されている場合のみ、この項目を設定できます。(既定値: Auto)
- ☞ **Package C State Limit** ^(注1)
 プロセッサ C-state (省電力状態) の上限を指定できます。**Auto** では、BIOS がこの設定を自動的に設定します。**C-States Control** が **Enabled** に設定されている場合のみ、この項目を設定できます。(既定値: Auto)
- ▼ **Turbo Power Limits**
 CPU Turboモードの電力制限を設定できます。CPUの消費電力がこれらの指定された電力制限を超えると、CPUは電力を削減するためにコア周波数を自動的に低下します。**Auto** では、CPU仕様に従って電力制限を設定します。(既定値: Auto)
- ☞ **Power Limit TDP (Watts) / Power Limit Time**
 CPUプラットフォーム/メモリの各 Turbo モードに対する電力制限、および、指定した電力制限で動作する時間を設定することができます。**Auto** では、CPU仕様に従って電力制限を設定します。この設定項目は、**Turbo Power Limits** が **Enabled** に設定されている場合にのみ設定が可能です。(既定値: Auto)
- ☞ **Core Current Limit (Amps)**
 CPU Turboモードの電流制限を設定できます。CPUの電流がこれらの指定された電流制限を超えると、CPUは電流を削減するためにコア周波数を自動的に低下します。**Auto** では、CPU仕様に従って電力制限を設定します。この設定項目は、**Turbo Power Limits** が **Enabled** に設定されている場合にのみ設定が可能です。(既定値: Auto)
- ▼ **Turbo Per Core Limit Control** ^(注1)
 個別に各 CPU コアの制限を制御することができます。(既定値: Auto)
- ☞ **Extreme Memory Profile (X.M.P.)** ^(注2)
 有効にすると、BIOSがXMPメモリモジュールのSPDデータを読み取り、メモリのパフォーマンスを強化することが可能です。

 - ▶▶ Disabled この機能を無効にします。(既定値)
 - ▶▶ Profile1 プロファイル1設定を使用します。
 - ▶▶ Profile2 ^(注2) プロファイル2設定を使用します。
- ☞ **System Memory Multiplier**
 システム メモリマルチプライヤの設定が可能になります。**Auto** は、メモリの SPD データに従ってメモリマルチプライヤを設定します。(既定値: Auto)
- ☞ **Memory Ref Clock**
 メモリの周波数を手動で調整できます。(既定値: Auto)
- ☞ **Memory Odd Ratio (100/133 or 200/266)** ^(注2)
 有効化すると、Qclkが奇数の周波数値で設定可能になります。(既定値: Auto)
- ☞ **Gear Mode** ^(注2)
 最大OC周波数のポテンシャルを向上させることができます。(既定値: Auto)

(注1) この機能をサポートするCPUを取り付けている場合のみ、この項目が表示されます。Intel® CPUの固有機能の詳細については、Intel の Web サイトにアクセスしてください。

(注2) この機能をサポートするCPUとメモリモジュールを取り付けているときのみ、この項目が表示されます。

■ Advanced Memory Settings (メモリの詳細設定)

○ Memory Multiplier Tweaker

様々なレベルのメモリの自動調整を提供します。(既定値: Auto)

○ Channel Interleaving

メモリチャンネルのインターリーピングの有効/無効を切り替えます。**Enabled** (有効) 設定にすると、システムはメモリのさまざまなチャンネルに同時にアクセスしてメモリパフォーマンスと安定性の向上を図ります。**Auto** では、BIOS がこの設定を自動的に設定します。(既定値: Auto)

○ Rank Interleaving

メモリバンクのインターリーピングの有効/無効を切り替えます。**Enabled** (有効) 設定すると、システムはメモリのさまざまなバンクに同時にアクセスしてメモリパフォーマンスと安定性の向上を図ります。**Auto** では、BIOS がこの設定を自動的に設定します。(既定値: Auto)

○ Memory Boot Mode

メモリチェックと動作方法の設定を行います。

- ▶ Auto BIOSでこの設定を自動的に構成します。(既定値)
- ▶ Normal BIOSは自動的にメモリのトレーニングを行います。システムが不安定になつたり起動できなくなった場合、CMOSクリアし、BIOS設定内容をリセットしますのでご注意ください。(CMOSクリアする方法については、第1章のバッテリー/CMOSクリアジャンパーの紹介を参照してください。)
- ▶ Enable Fast Boot 高速メモリブート可能なメモリ検出を行います。
- ▶ Disable Fast Boot ブート時にメモリ1本1本の順にチェックを行います。

○ Realtime Memory Timing

BIOSステージの後にメモリのタイミングを微調整することができます。(既定値: Auto)

○ Memory Enhancement Settings (メモリの拡張設定)

メモリアフォーマンスの設定を行います: Auto, Relax OC, Enhanced Stability, Normal, Enhanced Performance, High Frequency, High Density, およびDDR-4500+。(既定値: Auto)

○ Memory Channel Detection Message

メモリが最適なメモリチャンネルに取り付けられていない場合に、アラートメッセージを表示するかどうかを設定できます。(既定値: Enabled)

■ SPD Info

取り付けられているメモリの情報を表示します。

■ Memory Channels Timings

▼ Channels Standard Timing Control, Channels Advanced Timing Control, Channels

Misc Timing Control

これらのセクションでは、メモリのタイミング設定を変更できます。注: メモリのタイミングを変更後、システムが不安定になつたり起動できなくなることがあります。その場合、最適化された初期設定を読み込むかまたは CMOS 値を消去することでリセットしてみてください。

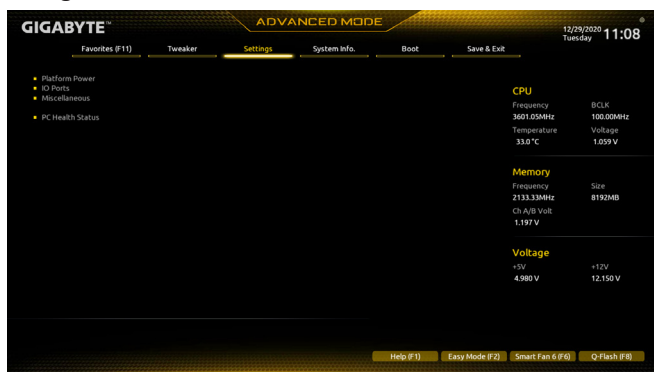
○ Vcore Volatge Mode/CPU Vcore/Dynamic Vcore(DVID)/BCLK Adaptive Voltage/CPU Graphics Voltage (VAXG)/DRAM Voltage (CH A/B)/CPU VCCIO/CPU VCCIO2/CPU System Agent Voltage/VCC Substained/VCCPLL OC/VCCVTT/ VCC STG/ VCC18 PCH/ VCC1V8P

これらの項目で CPU Vcore とメモリ電圧を調整することができます。

■ Advanced Voltage Settings (詳細な電圧設定)

このサブメニューでは、負荷線校正 (Load-Line Calibration) レベル、過電圧保護レベル、および過電流保護レベルを設定できます。

2-6 Settings



■ Platform Power

○ Platform Power Management

有効またはアクティブ状態の電源管理機能 (ASPM)を無効にします。(既定値: Disabled)

○ PEG ASPM

CPUのPEGバスに接続されたデバイスのためのASPMモードを設定することができます。この設定項目は、**Platform Power Management**が **Enabled** に設定されている場合にのみ設定が可能です。(既定値: Disabled)

○ PCH ASPM

チップセットのPCI Expressバスに接続されたデバイスのためのASPMモードを設定することができます。この設定項目は、**Platform Power Management**が **Enabled** に設定されている場合にのみ設定が可能です。(既定値: Disabled)

○ DMI ASPM

CPU側およびDMIリンクのチップセット側の両方にASPMモードを設定することができます。この設定項目は、**Platform Power Management**が **Enabled** に設定されている場合にのみ設定が可能です。(既定値: Disabled)

○ Power On By Keyboard

PS/2 キーボードの呼び起こしイベントによりシステムの電源をオンにすることが可能です。注: この機能を使用するには、+5VSBリードで1A以上を提供するATX電源装置が必要です。

- ▶▶ Disabled この機能を無効にします。(既定値)
- ▶▶ Password 1~5文字でシステムをオンにするためのパスワードを設定します。
- ▶▶ Keyboard 98 Windows 98 キーボードのPOWERボタンを押してシステムの電源をオンにします。
- ▶▶ Any Key キーボードのいずれかのキーを押してシステムの電源をオンにします。

○ Power On Password

Power On By Keyboardが **Password** に設定されているとき、パスワードを設定します。このアイテムで <Enter> を押して5文字以内でパスワードを設定し、<Enter> を押して受け入れます。システムをオンにするには、パスワードを入力し <Enter> を押します。注: パスワードをキャンセルするには、このアイテムで <Enter> を押します。パスワードを求められたとき、パスワードを入力せずに <Enter> を再び押すとパスワード設定が消去されます。

○ Power On By Mouse

PS/2 マウスからの入力により、システムをオンにします。注: この機能を使用するには、+5VSBリードで1A以上を提供するATX電源装置が必要です。

- ▶▶ Disabled この機能を無効にします。(既定値)
- ▶▶ Move マウスを移動してシステムの電源をオンにします。
- ▶▶ Double Click マウスの左ボタンをダブルクリックすると、システムのパワーがオンになります。

- ◁ **ErP**
 S5 (シャットダウン) 状態でシステムの消費電力を最小に設定します。(既定値: Disabled)
 注: このアイテムを **Enabled** に設定すると、次の機能が使用できなくなります。アラームタイマーによる復帰、マウスによる電源オン、キーボードによる電源オン。
- ◁ **Soft-Off by PWR-BTTN**
 電源ボタンで MS-DOS モードのコンピュータの電源をオフにする設定をします。
 - ▶ Instant-Off 電源ボタンを押すと、システムの電源は即時にオフになります。(既定値)
 - ▶ Delay 4 Sec. パワーボタンを 4 秒間押し続けると、システムはオフになります。パワーボタンを押して 4 秒以内に放すと、システムはサスペンドモードに入ります。
- ◁ **Resume by Alarm**
 任意の時間に、システムの電源をオンに設定します。(既定値: Disabled)
 有効になっている場合、以下のように日時を設定してください:
 - ▶ Wake up day: ある月の毎日または特定の日の特定の時間にシステムをオンにします。
 - ▶ Wake up hour/minute/second: 自動的にシステムの電源がオンになる時間を設定します。
 注: この機能を使う際は、オペレーティングシステムからの不適切なシャットダウンまたは AC 電源の取り外しはしないで下さい。そのような行為をした場合、設定が有効にならないことがあります。
- ◁ **Power Loading**
 ダミーローディング機能の有効/無効を切り替えます。パワーサプライユニットのローディングが低いためにシステムのシャットダウンや起動に失敗する場合は、有効に設定してください。Auto では、BIOS がこの設定を自動的に設定します。(既定値: Auto)
- ◁ **RC6(Render Standby)**
 オンボードグラフィックスをスタンバイモードに入れて消費電力を削減するかどうかを決定できます。(既定値: Enabled)
- ◁ **AC BACK**
 AC 電源損失から電源復帰した後のシステム状態を決定します。
 - ▶ Memory AC 電源が戻ると、システムは既知の最後の稼働状態に戻ります。
 - ▶ Always On AC 電源が戻るとシステムの電源はオンになります。
 - ▶ Always Off AC 電源が戻ってもシステムの電源はオフのままです。(既定値)
- **IO Ports**
 - ◁ **Initial Display Output**
 取り付けられた PCI Express グラフィックスカード、またはオンボードグラフィックスから、最初に呼び出すモニターディスプレイを指定します。
 - ▶ IGFX^(注) 最初のディスプレイとしてオンボードグラフィックスを設定します。
 - ▶ PCIe 1 Slot 最初のディスプレイとして、PCIEX16 スロットにあるグラフィックスカードを設定します。(既定値)
 - ▶ PCIe 2 Slot 最初のディスプレイとして、PCIEX4_1 スロットにあるグラフィックスカードを設定します。
 - ▶ PCIe 3 Slot 最初のディスプレイとして、PCIEX4_2 スロットにあるグラフィックスカードを設定します。
 CSM Support が **Enabled** に設定されている場合のみ、この項目を設定できます。
 - ◁ **Internal Graphics**
 オンボードグラフィックス機能の有効/無効を切り替えます。(既定値: Auto)
 - ◁ **DVMT Pre-Allocated**
 オンボードグラフィックスのメモリサイズを設定できます。(既定値: 64M)
 - ◁ **DVMT Total Gfx Mem**
 オンボードグラフィックスの DVMT メモリサイズを割り当てることができます。
 オプション: 128M、256M、MAX。(既定値: 256M)

(注) この機能をサポートする CPU を取り付けられている場合のみ、この項目が表示されます。

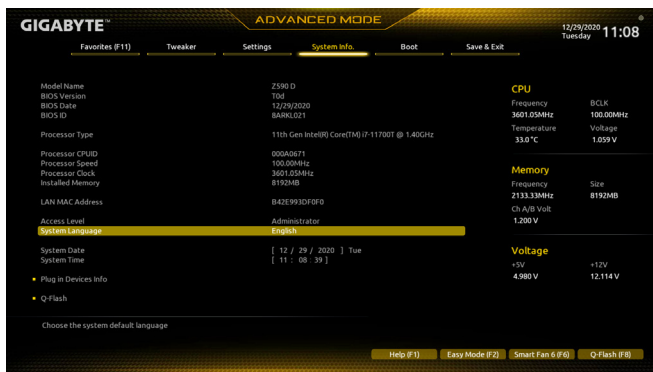
- **Aperture Size**
グラフィックスカードに割り当てることができるシステムメモリの最大量を設定できます。
オプション：128MB、256MB、512MB、1024MB、および2048MB。(既定値：256MB)
- **PCIe Bifurcation Support**
PCIEX16 スロットの帯域幅をどのように分割するかを決定できます。オプション：Auto、PCIEx8/x8、PCIEx8/x4/x4。(既定値：Auto)
- **OnBoard LAN Controller**
オンボードLAN機能の有効/無効を切り替えます。(既定値：Enabled)
オンボードLANを使用する代わりに、サードパーティ製増設用ネットワークカードをインストールする場合、この項目を **Disabled** に設定します。
- **Audio Controller**
オンボードオーディオ機能の有効/無効を切り替えます。(既定値：Enabled)
オンボードオーディオを使用する代わりに、サードパーティ製アドインオーディオカードをインストールする場合、この項目を **Disabled** に設定します。
- **Above 4G Decoding**
64 ビット対応のデバイスは、4 GB 以上のアドレス空間でデコードすることができます。(お使いのシステムが 64 ビット PCI デコードをサポートしている場合のみ)。 **Enabled** (有効) 設定にした場合、複数の高度なグラフィックスカードが使用されている場合、オペレーティングシステムを読み込み中に起動することができない場合があります (4 GB制限の仕様のため)。(既定値：Disabled)
- **IOAPIC 24-119 Entries**
この機能の有効/無効を切り替えます。(既定値：Enabled)
- **Super IO Configuration**
 - **シリアルポート**
オンボードシリアルポートの有効/無効を切り替えます。(既定値：Enabled)
 - **USB Configuration**
 - **Legacy USB Support**
USB キーボード/マウスを MS-DOS で使用できるようにします。(既定値：Enabled)
 - **XHCI Hand-off**
XHCI/ハンドオフに対応していないOSでも、XHCI/ハンドオフ機能を有効/無効に設定できます。(既定値：Enabled)
 - **USB Mass Storage Driver Support**
USBストレージデバイスの有効/無効を切り替えます。(既定値：Enabled)
 - **Mass Storage Devices**
接続された USB 大容量デバイスのリストを表示します。この項目は、USBストレージデバイスがインストールされた場合のみ表示されます。
 - **Network Stack Configuration**
 - **Network Stack**
Windows Deployment ServicesサーバーのOSのインストールなど、GPT形式のOSをインストールするためのネットワーク起動の有効/無効を切り替えます。(既定値：Disabled)
 - **IPv4 PXE Support**
IPv4 PXEサポートの有効/無効を切り替えます。 **Network Stack** が有効になっている場合のみ、この項目を構成できます。
 - **IPv4 HTTP Support**
IPv4のHTTPブートサポートを有効または無効に設定します。 **Network Stack** が有効になっている場合のみ、この項目を構成できます。
 - **IPv6 PXE Support**
IPv6 PXEサポートの有効/無効を切り替えます。 **Network Stack** が有効になっている場合のみ、この項目を構成できます。

- **IPv6 HTTP Support**
IPv6のHTTPブートサポートを有効または無効に設定します。**Network Stack**が有効になっている場合のみ、この項目を構成できます。
- **PXE boot wait time**
PXEブートをキャンセルするための、<Esc>キー入力待ち時間を設定できます。**Network Stack**が有効になっている場合のみ、この項目を構成できます。(既定値:0)
- **Media detect count**
外部メディアの存在を確認する回数を設定できます。**Network Stack**が有効になっている場合のみ、この項目を構成できます。(既定値:1)
- **NVMe Configuration**
取り付けられている場合、M.2 NVMe PCIe SSDに関する情報を表示します。
- **SATA And RST Configuration**
 - **SATA Controller(s)**
統合されたSATAコントローラーの有効/無効を切り替えます。(既定値: Enabled)
 - **SATA Mode Selection**
チップセットに統合されたSATAコントローラー用のRAIDの有効/無効を切り替えるか、SATAコントローラーをAHCIモードに構成します。
 - ▶ Intel RST Premium With Intel Optane System Acceleration SATAコントローラーのRAID機能を有効化します。
 - ▶ AHCI SATAコントローラーをAHCIモードに構成します。Advanced Host Controller Interface (AHCI)は、ストレージドライバがNCQ(ネイティブ・コマンド・キューイング)およびホットプラグなどの高度なシリアルATA機能を有効にできるインターフェイス仕様です。(既定値)
 - **Aggressive LPM Support**
Chipset SATAコントローラーに対する省電力機能であるALPM(アグレッシブリンク電源管理)を有効または無効にします。(既定値: Disabled)
 - **Port 0/1/2/3/4/5**
各SATAポートを有効または無効にします。(既定値: Enabled)
 - **SATA Port 0/1/2/3/4/5 DevSlp**
接続されたSATAデバイスをスリープモードに移行させるかどうかを決定します。(既定値: Disabled)
 - **Hot plug**
各SATAポートのホットプラグ機能を有効または無効にします。(既定値: Disabled)
 - **Configured as eSATA**
追加SATAデバイスの有効/無効を切り替えます。
- **Realtek PCIe GBE Family Controller**
このサブメニューは、LAN構成と関連する構成オプションの情報を提供します。
- **Miscellaneous**
 - **LEDs in System Power On State**
システムの電源が入っているときに、マザーボードのLED照明を有効または無効にすることができます。
 - ▶ Off システムがオンのときに、選択した照明モードを無効にします。
 - ▶ On オンシステムがオンのときに、選択した照明モードを有効にします。(既定値)

- ◁ **LEDs in Sleep, Hibernation, and Soft Off States**
 システムがS3/S4/S5状態のマザーボードのLED点灯モードを設定できます。
 この項目は、**LEDs in System Power On State** が **On** に設定されている場合に設定できます。
 - ▶ Off システムがS3/S4/S5状態に入ったときに、選択した照明モードを無効にします。
(既定値)
 - ▶ On システムがS3/S4/S5状態の場合、選択した照明モードを有効にします。
- ◁ **Intel Platform Trust Technology (PTT)**
 Intel® PTT テクノロジーの有効/無効を切り替えます。(既定値: Disabled)
- ◁ **3DMark01 Enhancement**
 一部の従来のベンチマーク性能を向上させることができます。(既定値: Disabled)
- ◁ **CPU PCIe Link Speed**
 CPUに制御されるPCI Expressスロットの動作モードをGen 1、Gen 2、Gen 3、またはGen 4⁽²⁾に設定できます。実際の動作モードは、各スロットのハードウェア仕様によって異なります。**Auto** では、BIOSがこの設定を自動的に設定します。(既定値: Auto)
- ◁ **PCH PCIe Link Speed**
 チップセットに制御されるPCI Expressスロットの動作モードをGen 1、Gen 2、またはGen 3に設定できます。実際の動作モードは、各スロットのハードウェア仕様によって異なります。**Auto** では、BIOSがこの設定を自動的に設定します。(既定値: Auto)
- ◁ **VT-d**
 Directed I/O 用 Intel® Virtualization テクノロジーの有効/無効を切り替えます。(既定値: Enabled)
- **Trusted Computing**
 Trusted Platform Module (TPM) を有効または無効にします。
- **PC Health Status**
 - ◁ **Reset Case Open Status**
 - ▶ Disabled 過去のケース開閉状態の記録を保持または消去します。(既定値)
 - ▶ Enabled 過去のケース開閉状態の記録をクリアします。次回起動時、**Case Open** フィールドに「No」と表示されます。
 - ◁ **Case Open**
 マザーボードのCIヘッダに接続されたケース開閉の検出状態を表示します。システムケースのカバーが外れている場合、このフィールドが「Yes」になります。そうでない場合は「No」になります。ケースの開閉状態の記録を消去したい場合は、**Reset Case Open Status** を **Enabled** にして、設定をCMOSに保存してからシステムを再起動します。
 - ◁ **CPU Vcore/CPU VCCSA/DRAM Channel A/B Voltage/+3.3V/+5V/+12V/CPU VAXG**
 現在のシステム電圧を表示します。

(注) この機能をサポートするCPUを取り付けている場合のみ、この項目が表示されます。

2-7 System Info. (システムの情報)



このセクションでは、マザーボードモデルおよびBIOSバージョンの情報を表示します。また、BIOSが使用する既定の言語を選択して手動でシステム時計を設定することもできます。

Access Level

使用するパスワード保護のタイプによって現在のアクセスレベルを表示します。(パスワードが設定されていない場合、既定では **Administrator**(管理者)として表示されます。)管理者レベルでは、すべてのBIOS設定を変更することが可能です。ユーザーレベルでは、すべてではなく特定のBIOS設定のみが変更できます。

System Language

BIOSが使用する既定の言語を選択します。

System Date

システムの日付を設定します。<Enter>でMonth(月)、Date(日)、およびYear(年)フィールドを切り替え、<Page Up>キーと<Page Down>キーで設定します。

System Time

システムの時計を設定します。時計の形式は時、分、および秒です。例えば、1 p.m. は 13:00:00 です。<Enter>でHour(時間)、Minute(分)、およびSecond(秒)フィールドを切り替え、<Page Up>キーと<Page Down>キーで設定します。

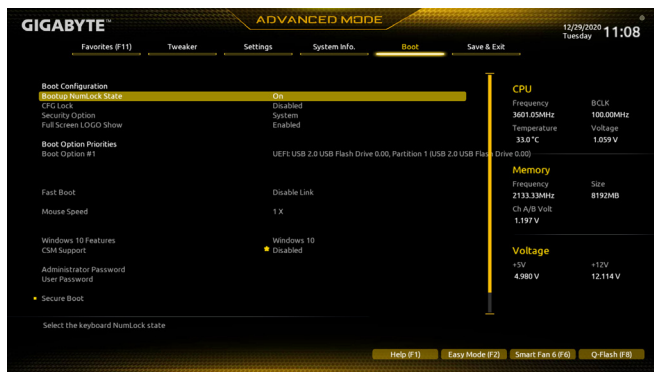
Plug in Devices Info

PCI ExpressおよびM.2デバイスが取り付けられている場合は、それらのデバイスに関する情報を表示します。

Q-Flash

Q-Flash ユーティリティにアクセスしてBIOSを更新したり、現在のBIOS設定をバックアップしたりできます。

2-8 Boot



○ Bootup NumLock State

POST後にキーボードの数字キーボードにあるNumLock機能の有効/無効を切り替えます。(既定値: On)

○ CFG Lock

MSR 0xE2機能の有効/無効を切り替えます。(既定値: Disabled)

○ Security Option

パスワードは、システムが起動時、またはBIOSセットアップに入る際に指定します。このアイテムを設定した後、BIOSメインメニューのAdministrator Password/User Passwordアイテムの下でパスワードを設定します。

- ▶ Setup パスワードはBIOSセットアッププログラムに入る際にのみ要求されます。
- ▶ System パスワードは、システムを起動したりBIOSセットアッププログラムに入る際に要求されます。(既定値)

○ Full Screen LOGO Show

システム起動時に、GIGABYTEロゴの表示設定をします。Disabledにすると、システム起動時にGIGABYTEロゴをスキップします。(既定値: Enabled)

○ Boot Option Priorities

使用可能なデバイスから全体の起動順序を指定します。起動デバイスリストでは、GPT形式をサポートするリムーバブルストレージデバイスの前に「UEFI」が付きます。GPTパーティションをサポートするオペレーティングシステムから起動するには、前に「UEFI」が付いたデバイスを選択します。

また、Windows 10 (64ビット) など GPTパーティションをサポートするオペレーティングシステムをインストールする場合は、Windows 10 (64ビット) インストールディスクを挿入し前に「UEFI」が付いた光学ドライブを選択します。

○ Fast Boot

Fast Bootを有効または無効にしてOSの起動処理を短縮します。Ultra Fastでは起動速度が最速になります。(既定値: Disable Link)

○ SATA Support

- ▶ Last Boot SATA Devices Only 以前の起動ドライブを除いて、すべてのSATAデバイスは、OS起動プロセスが完了するまで無効になります。(既定値)
- ▶ All SATA Devices オペレーティングシステムおよびPOST中は、全SATAデバイスは機能します。この項目は、Fast BootがEnabledまたはUltra Fastに設定された場合のみ設定可能です。

- **VGA Support**

起動するオペレーティングシステム種別が選択できます。

 - ▶ Auto 従来のオプションROMのみを有効にします。
 - ▶ EFI Driver EFIオプションROMを有効にします。(既定値)

この項目は、**Fast Boot**が**Enabled**または**Ultra Fast**に設定された場合のみ設定可能です。
- **USB Support**
 - ▶ Disable Link OSブートプロセスが完了するまで、全USBデバイスは無効になります。
 - ▶ Full Initial オペレーティングシステムおよびPOST中は、全USBデバイスは機能します。(既定値)
 - ▶ Partial Initial OSブートプロセスが完了するまで、一部のUSBデバイスは無効になります。

この項目は、**Fast Boot**が**Enabled**または**Ultra Fast**に設定された場合のみ設定可能です。**Fast Boot**が**Ultra Fast**に設定されている場合、この機能は無効になります。
- **PS2 Devices Support**
 - ▶ Disable Link OSブートプロセスが完了するまで、全PS/2デバイスは無効になります。
 - ▶ Enabled オペレーティングシステムおよびPOST中は、全PS/2デバイスは機能します。(既定値)

この項目は、**Fast Boot**が**Enabled**または**Ultra Fast**に設定された場合のみ設定可能です。**Fast Boot**が**Ultra Fast**に設定されている場合、この機能は無効になります。
- **NetWork Stack Driver Support**
 - ▶ Disable Link ネットワークからのブートを無効にします。(既定値)
 - ▶ Enabled ネットワークからのブートを有効にします。

この項目は、**Fast Boot**が**Enabled**または**Ultra Fast**に設定された場合のみ設定可能です。
- **Next Boot After AC Power Loss**
 - ▶ Normal Boot 電源復帰後に通常起動をします。(既定値)
 - ▶ Fast Boot 電源復帰後もFast Boot設定を維持します。

この項目は、**Fast Boot**が**Enabled**または**Ultra Fast**に設定された場合のみ設定可能です。
- **Mouse Speed**

マウスカーソルの移動速度を設定します。(既定値:1X)
- **Windows 10 Features**

インストールするオペレーティングシステムを選択することができます。(既定値:Windows 10)
- **CSM Support**

従来のPC起動プロセスをサポートするには、UEFI CSM (Compatibility Software Module) を有効または無効にします。

 - ▶ Disabled UEFI CSMを無効にし、UEFI BIOS起動プロセスのみをサポートします。(既定値)
 - ▶ Enabled UEFI CSMを有効にします。
- **LAN PXE Boot Option ROM**

LANコントローラーの従来のオプションROMを有効にすることができます。(既定値:Disabled)

CSM Supportが**Enabled**に設定されている場合のみ、この項目を設定できます。
- **Storage Boot Option Control**

ストレージデバイスコントローラーについて、UEFIまたはレガシーのオプションROMを有効にするかを選択できます。

 - ▶ Do not launch オプションROMを無効にします。
 - ▶ UEFI UEFIのオプションROMのみを有効にします。
 - ▶ Legacy レガシーのオプションROMのみを有効にします。(既定値)

CSM Supportが**Enabled**に設定されている場合のみ、この項目を設定できます。

↳ **Other PCI devices**

LAN、ストレージデバイス、およびグラフィックスROMなどを起動させる設定ができます。UEFIまたはレガシーのオプションROMを有効にするかを選択できます。

- ▶ Do not launch オプションROMを無効にします。
- ▶ UEFI UEFIのオプションROMのみを有効にします。(既定値)
- ▶ Legacy レガシーのオプションROMのみを有効にします。

CSM Support が Enabled に設定されている場合のみ、この項目を設定できます。

↳ **Administrator Password**

管理者パスワードの設定が可能になります。この項目で <Enter> を押し、パスワードをタイプし、続いて <Enter> を押します。パスワードを確認するよう求められます。再度パスワードをタイプして、<Enter> を押します。システム起動時およびBIOS セットアップに入るときは、管理者パスワード(またはユーザーパスワード)を入力する必要があります。ユーザーパスワードと異なり、管理者パスワードではすべてのBIOS設定を変更することが可能です。

↳ **User Password**

ユーザーパスワードの設定が可能になります。この項目で <Enter> を押し、パスワードをタイプし、続いて <Enter> を押します。パスワードを確認するよう求められます。再度パスワードをタイプして、<Enter> を押します。システム起動時およびBIOS セットアップに入るときは、管理者パスワード(またはユーザーパスワード)を入力する必要があります。しかし、ユーザーパスワードでは、変更できるのはすべてではなく特定のBIOS設定のみです。

パスワードをキャンセルするには、パスワード項目で <Enter> を押します。パスワードを求められたら、まず正しいパスワードを入力します。新しいパスワードの入力を求められたら、パスワードに何も入力しないで <Enter> を押します。確認を求められたら、再度 <Enter> を押します。

注：ユーザーパスワードを設定する前に、最初に管理者パスワードを設定してください。

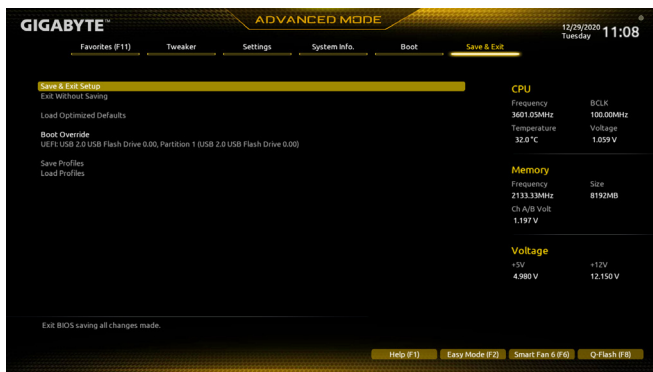
■ **Secure Boot**

セキュアブートを有効または無効設定することができます。CSM Support が Disabled に設定されている場合のみ、この項目を設定できます。

↳ **Preferred Operating Mode**

BIOSセットアップに入った後に、EasyモードとAdvancedモードのどちらに入るかを選択できます。Auto は前回使用したBIOSモードに入ります。(既定値: Auto)

2-9 Save & Exit (保存して終了)



- **Save & Exit Setup**

この項目で<Enter>を押し、**Yes**を選択します。これにより、CMOSの変更が保存され、BIOSセットアッププログラムを終了します。**No**を選択するかまたは<Esc>を押すと、BIOSセットアップのメインメニューに戻ります。
- **Exit Without Saving**

この項目で<Enter>を押し、**Yes**を選択します。これにより、CMOSに対して行われたBIOSセットアップへの変更を保存せずに、BIOSセットアップを終了します。**No**を選択するかまたは<Esc>を押すと、BIOSセットアップのメインメニューに戻ります。
- **Load Optimized Defaults**

この項目で<Enter>を押し、**Yes**を選択してBIOSの最適な初期設定を読み込みます。BIOSの初期設定は、システムが最適な状態で稼働する手助けをします。BIOSのアップデート後またはCMOS値の消去後には必ず最適な初期設定を読み込みます。
- **Boot Override**

直ちに起動するデバイスを選択できます。選択したデバイスで<Enter>を押し、**Yes**を選択して確定します。システムは自動で再起動してそのデバイスから起動します。
- **Save Profiles**

この機能により、現在のBIOS設定をプロファイルに保存できるようになります。最大8つのプロファイルを作成し、セットアッププロファイル1～セットアッププロファイル8として保存することができます。<Enter>を押して終了します。または**Select File in HDD/FDD/USB**を選択してプロファイルをストレージデバイスに保存します。
- **Load Profiles**

システムが不安定になり、BIOSの既定値設定をロードした場合、この機能を使用して前に作成されたプロファイルからBIOS設定をロードすると、BIOS設定をわざわざ設定しなおす煩わしさを避けることができます。まず読み込むプロファイルを選択し、<Enter>を押して完了します。**Select File in HDD/FDD/USB**を選択すると、お使いのストレージデバイスから以前作成したプロファイルを入力したり、正常動作していた最後のBIOS設定(最後の既知の良好レコード)に戻すなど、BIOSが自動的に作成したプロファイルを読み込むことができます。

第3章 付録

3-1 RAID セットを設定する

	RAID 0	RAID 1	RAID 5	RAID 10
ハードドライブの最小数	≥2	2	≥3	4
アレイ容量	ハードドライブの数 * 最小ドライブのサイズ	最小ドライブのサイズ	(ハードドライブの数 - 1) * 最小ドライブのサイズ	(ハードドライブの数 / 2) * 最小ドライブのサイズ
耐故障性	いいえ	はい	はい	はい

始める前に、以下のアイテムを用意してください：

- 少なくとも1台の SATA ハードドライブまたは SSD。^(注1)(最適のパフォーマンスを発揮するために、同じモデルと容量のハードドライブを2台使用することをお勧めします)。^(注2)
- Windows セットアップディスク。
- マザーボードドライバディスク。
- USB メモリドライブ

SATAコントローラの設定

A. ハードドライブの取り付け

HDDまたはSSDをIntel®チップセット接続のコネクタに接続してください。次に、電源装置からハードドライブに電源コネクタを接続します。

B. BIOS セットアップで SATA コントローラモードを設定する

SATA コントローラコードがシステム BIOS セットアップで正しく設定されていることを確認してください。

ステップ：

コンピュータの電源をオンにし、POST (パワーオンセルフテスト)中に <Delete> を押して BIOS セットアップに入ります。Settings\IO Ports\SATA And RST Configuration に移動します。SATA Controller(s) が有効であることを確認してください。RAID を構築するには、SATA Mode Selection を Intel RST Premium With Intel Optane System Acceleration に設定してください。次に設定を保存し、コンピュータを再起動します。注：PCIe SSDを使用する場合は、Settings\IO Ports\SATA And RST ConfigurationのRST Control PCIe Storage Devices項目をManualに設定してください。そして、使用するM.2コネクタに応じて、対応するPCIe Storage Dev on Port XX項目をRST Controlledに設定します。最後に、設定を保存しBIOS設定を終了してください。



このセクションで説明した BIOS セットアップメニューは、マザーボードによって異なる場合があります。表示される実際の BIOS セットアップオプションは、お使いのマザーボードおよび BIOS バージョンによって異なります。

C. UEFI RAID の設定

ステップ：

1. システムの再起動後、再度 BIOS セットアップに入ります。続いて Settings\IO Ports\Intel(R) Rapid Storage Technology サブメニューに入ります。
2. Intel(R) Rapid Storage Technology メニューにおいて、Create RAID Volume で <Enter> を押して Create RAID Volume 画面に入ります。Name の項目の下に1~16文字 (特殊文字は使用できません)のボリューム名を入力し、<Enter>を押します。RAID レベルを選択します。サポートされる RAID レベルには RAID 0、RAID 1、RAID 10、と RAID 5 が含まれています (使用可能な選択は取り付けられているハードドライブの数によって異なります)。次に、下矢印キーを用いて Select Disks に移動します。

(注1) M.2 PCIe SSD を RAID セットを M.2 SATA SSD または SATA ハードドライブと共に設定するために使用することはできません。

(注2) M.2、および SATA コネクタでサポートされる構成については、「内部コネクタ」を参照してください。

3. **Select Disks**の項目で、RAID アレイに含めるハードドライブを選択します。選択するハードドライブの<Space>キーを押します(選択したハードドライブには「X」が付いています)。次に、ストライプブロックサイズを設定します。ストライプブロックサイズは、4KB から 128KB まで設定できます。ストライプブロックサイズを選択したら、ボリューム容量を設定します。
4. 容量を設定したら、**Create Volume**(ボリュームの作成)に移動し、<Enter>を押して開始します。
5. 完了すると、**Intel(R) Rapid Storage Technology** 画面に戻ります。**RAID Volumes** に新しい RAID ボリュームが表示されます。詳細情報を見るには、ボリューム上で<Enter>を押して RAID レベルの情報、ストライプブロックサイズ、アレイ名、アレイ容量などを確認します。

RAID ドライバーとオペレーティングシステムのインストール

BIOS設定が正しければ、オペレーティングシステムをいつでもインストールできます。一部のオペレーティングシステムにはすでに SATA RAID ドライバが含まれているため、Windows のインストールプロセス中に RAID ドライバを個別にインストールする必要はありません。オペレーティングシステムのインストール後、「Xpress Install」を使用してマザーボードドライバディスクから必要なドライバをすべてインストールして、システムパフォーマンスと互換性を確認するようにお勧めします。インストールされているオペレーティングシステムが、OS インストールプロセス中に追加 SATA RAID ドライバの提供を要求する場合は、以下のステップを参照してください。

1. ドライバディスクの **!Boot** にある **IRST** フォルダをお使いの USBメモリドライブにコピーします。
2. Windows セットアップディスクからブートし、標準の OS インストールステップを実施します。画面でドライバを読み込んでくださいという画面が表示されたら、**Browse**を選択します。
3. 次に、USBフラッシュドライブを開覧して、ドライバの場所を選択します。ドライバの場所は次の通りです。**!IRST\!f6!py-x64**
4. 画面に表示されたら、**Intel(R) Chipset SATA/PCIe RST Premium Controller** を選択し、**Next** をクリックしてドライバをロードし OS のインストールを続行します。

3-2 Intel® Optane™ Memory and Storage Management インストール方法

ステップ:

1. オペレーティングシステムが起動した後、マザーボードドライバディスクを光学ドライブに挿入します。Xpress Installスクリーンで、**Intel® Optane® Memory System and Storage Management** を選択し、インストールします。画面に表示された案内に従って続けます。完了したら、システムを再起動してください。
2. 付属のマザーボードドライバをインストールした後、インターネット接続が正常に動作することを確認してください。システムは自動的にIntel® のソフトウェアをインストールします。ドライバをインストールした後、システムを再起動してください。

A. Intel® Optane™ Memory を有効化する

A-1:システム必要条件

1. Intel® Optane™ メモリ
2. Optane™ メモリ機能を使用する為には、16 GB の空き容量が必要です。また、高速化するハードドライブ/SSDと同等かそれ以下の容量が必要です。
3. Optane™メモリは、既存のRAIDアレイを高速化するために使用することはできません。高速化されたハードドライブ/SSDをRAIDアレイに含めることはできません。
4. 高速化されるハードドライブ/SSDはSATAハードドライブまたはM.2 SATA SSD。
5. 加速されるHDD/SSDは、システムドライブまたはデータドライブにすることができます。システムドライブはGPTフォーマットで、Windows 10 64ビット (またはそれ以降のバージョン) がインストールされている必要があります。データドライブもGPT形式にする必要があります。
6. マザーボードドライバディスク。
7. SATAコントローラーは、Intel RST Premium With Intel Optane System Acceleration に設定する必要があります。



RAIDアレイの構成の詳細については、GIGABYTEのWebサイトをご覧ください。

A-2: インストールのガイドライン

1. **Settings** \ **IO Ports** \ **SATA And RST Configuration** に移動し、**RST Control PCIe Storage Devices** が **Manual** に設定されていることを確認してください。次に、**Optane™** メモリをインストールした M.2 コネクタに応じて、対応する **PCIe Storage Dev on Port XX** 項目を **RST Controlled** に設定してください。
2. オペレーティングシステムを再起動した後、スタートメニューから **Intel® Optane™ Memory and Storage Management** アプリケーションを起動します。複数の **Optane™** メモリを取り付けている場合、どれを使用するかを選択してください。次に、どのドライブをアクセラレーションするかを選択してください。**Enable Intel® Optane™ Memory** をクリックします。Optane™ メモリのすべてのデータが消去されます。続行する前に必ずデータをバックアップしてください。画面の指示に従って操作してください。完了したら、システムを再起動してください
3. スタートメニューから **Intel® Optane™ Memory and Storage Management** アプリケーションを起動し、Intel® Optane™ メモリが有効化されていることを確認します。
4. システムドライブを高速化する場合は、特定のフォルダ、ファイル、またはアプリケーションを選択して、**Intel® Optane™ Memory Pinning** 機能を使用して高速化することができます。(使用する Optane™ メモリの容量は 32 GB 以上でなければなりません。)



- Optane™ メモリは、M.2 PCIe SSD を高速化するために使用することはできません。
- 複数の Optane™ メモリがインストールされている場合、そのうちの1つだけを選択して SATA ベースのブートドライブを高速化することができます。他のものはデータドライブとしてのみ使用できます。
- Optane™ メモリを急に削除しないでください。オペレーティングシステムが正常に作動しなくなる可能性があります。
- Optane™ メモリを変更/削除したい場合は、まず **Intel® Optane™ Memory and Storage Management** アプリケーションを使用して無効化してください。
- Optane™ メモリを有効化すると、関連の BIOS 設定は BIOS をアップデートした後も残ります。

B. アレイを再構築する

再構築は、アレイの他のドライブからハードドライブにデータを復元するプロセスです。再構築は、RAID 1、RAID 5、RAID 10 アレイに対してのみ、適用されます。以下の手順では、新しいドライブを追加して故障したドライブを交換し RAID 1 アレイに再構築するものとします。(注: 新しいドライブは古いドライブより大きな容量にする必要があります。)

コンピュータの電源をオフにし、故障したハードドライブを新しいものと交換します。コンピュータを再起動します。オペレーティング・システムにて、[スタート]メニューから **Intel® Optane™ Memory and Storage Management** ユーティリティを起動します。

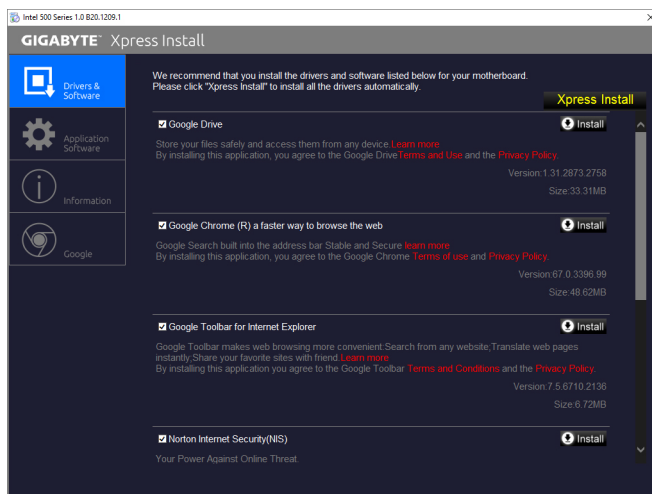
1. **Manage** メニューに移動し、**Manage Volume** で **Rebuild to another disk** をクリックします。
2. 新しいドライブを選択して RAID をリビルドし、**Rebuild** をクリックします。
3. 画面右側の **Status** 項目は、再構築の進行状況が表示されます。RAID 1 ボリュームを再構築した後、**Status** に **Normal** として表示されます。

3-3 ドライバのインストール



- ドライバをインストールする前に、まずオペレーティングシステムをインストールします。
- オペレーティングシステムをインストールした後、マザーボードのドライバディスクを光学ドライブに挿入します。画面右上隅のメッセージ「このディスクの操作を選択するにはタップしてください」をクリックし、「Run.exeの実行」を選択します。(またはマイコンピュータで光学ドライブをダブルクリックし、Run.exe プログラムを実行します。)

「Xpress Install」はシステムを自動的にスキャンし、インストールに推奨されるすべてのドライバをリストアップします。「Xpress Install」ボタンをクリックすると、「Xpress Install」が選択されたすべてのドライバをインストールします。または、矢印  アイコンをクリックすると、必要なドライバを個別にインストールします。



ソフトウェアについては、GIGABYTEのウェブサイトアクセスしてください。



トラブルシューティング情報については、GIGABYTEのウェブサイトアクセスしてください。

Regulatory Notices

United States of America, Federal Communications Commission Statement

Supplier's Declaration of Conformity
47 CFR § 2.1077 Compliance Information

Product Name: **Motherboard**
Trade Name: **GIGABYTE**
Model Number: **Z590 D**

Responsible Party – U.S. Contact Information: **G.B.T. Inc.**
Address: 17358 Railroad street, City Of Industry, CA91748
Tel.: 1-626-854-9338
Internet contact information: <https://www.gigabyte.com>

FCC Compliance Statement:

This device complies with Part 15 of the FCC Rules, Subpart B, Unintentional Radiators.
Operation is subject to the following two conditions: (1) This device may not cause harmful interference, and (2) this device must accept any interference received, including interference that may cause undesired operation.

This equipment has been tested and found to comply with the limits for a Class B digital device, pursuant to Part 15 of the FCC Rules. These limits are designed to provide reasonable protection against harmful interference in a residential installation. This equipment generates, uses and can radiate radio frequency energy and, if not installed and used in accordance with manufacturer's instructions, may cause harmful interference to radio communications. However, there is no guarantee that interference will not occur in a particular installation. If this equipment does cause harmful interference to radio or television reception, which can be determined by turning the equipment off and on, the user is encouraged to try to correct the interference by one or more of the following measures:

- Reorient or relocate the receiving antenna.
- Increase the separation between the equipment and receiver.
- Connect the equipment to an outlet on a circuit different from that to which the receiver is connected.
- Consult the dealer or an experienced radio/TV technician for help.

Canadian Department of Communications Statement

This digital apparatus does not exceed the Class B limits for radio noise emissions from digital apparatus set out in the Radio Interference Regulations of the Canadian Department of Communications. This class B digital apparatus complies with Canadian ICES-003.

Avis de conformité à la réglementation d'Industrie Canada

Cet appareil numérique de la classe B est conforme à la norme NMB-003 du Canada.

European Union (EU) CE Declaration of Conformity

This device complies with the following directives: Electromagnetic Compatibility Directive 2014/30/EU, Low-voltage Directive 2014/35/EU, RoHS directive (recast) 2011/65/EU & the 2015/863 Statement. This product has been tested and found to comply with all essential requirements of the Directives.

European Union (EU) RoHS (recast) Directive 2011/65/EU & the European Commission Delegated Directive (EU) 2015/863 Statement
GIGABYTE products have not intended to add and safe from hazardous substances (Cd, Pb, Hg, Cr+6, PBDE, PBB, DEHP, BBP, DBP and DIBP). The parts and components have been carefully selected to meet RoHS requirement. Moreover, we at GIGABYTE are continuing our efforts to develop products that do not use internationally banned toxic chemicals.

European Union (EU) Community Waste Electrical & Electronic Equipment (WEEE) Directive Statement

GIGABYTE will fulfill the national laws as interpreted from the 2012/19/EU WEEE (Waste Electrical and Electronic Equipment) (recast) directive. The WEEE Directive specifies the treatment, collection, recycling and disposal of electric and electronic devices and their components. Under the Directive, used equipment must be marked, collected separately, and disposed of properly.

WEEE Symbol Statement



The symbol shown below is on the product or on its packaging, which indicates that this product must not be disposed of with other waste. Instead, the device should be taken to the waste collection centers for activation of the treatment, collection, recycling and disposal procedure.

For more information about where you can drop off your waste equipment for recycling, please contact your local government office, your household waste disposal service or where you purchased the product for details of environmentally safe recycling.

End of Life Directives-Recycling



The symbol shown below is on the product or on its packaging, which indicates that this product must not be disposed of with other waste. Instead, the device should be taken to the waste collection centers for activation of the treatment, collection, recycling and disposal procedure.

Déclaration de Conformité aux Directives de l'Union européenne (UE)

Cet appareil portant la marque CE est conforme aux directives de l'UE suivantes: directive Compatibilité Electromagnétique 2014/30/UE, directive Basse Tension 2014/35/UE et directive RoHS II 2011/65/UE. La conformité à ces directives est évaluée sur la base des normes européennes harmonisées applicables.

European Union (EU) CE-Konformitätserklärung

Dieses Produkte mit CE-Kennzeichnung erfüllen folgenden EU-Richtlinien: EMV-Richtlinie 2014/30/EU, Niederspannungsrichtlinie 2014/30/EU und RoHS-Richtlinie 2011/65/EU erfüllt. Die Konformität mit diesen Richtlinien wird unter Verwendung der entsprechenden Standards zur Europäischen Normierung beurteilt.

CE declaração de conformidade

Este produto com a marcação CE estão em conformidade com das seguintes Diretivas UE: Diretiva Baixa Tensão 2014/35/EU; Diretiva CEM 2014/30/EU; Diretiva RSP 2011/65/UE. A conformidade com estas diretivas é verificada utilizando as normas europeias harmonizadas.

CE Declaración de conformidad

Este producto que llevan la marca CE cumplen con las siguientes Directivas de la Unión Europea: Directiva EMC (2014/30/EU), Directiva de bajo voltaje (2014/35/EU), Directiva RoHS (recast) (2011/65/EU). El cumplimiento de estas directivas se evalúa mediante las normas europeas armonizadas.

Dichiarazione di conformità CE

Questo prodotto è conforme alle seguenti direttive: Direttiva sulla compatibilità elettromagnetica 2014/30/UE, Direttiva sulla bassa tensione 2014/35/UE, Direttiva RoHS (rifusione) 2011/65/UE. Questo prodotto è stato testato e trovato conforme a tutti i requisiti essenziali delle Direttive.



連絡先

GIGA-BYTE TECHNOLOGY CO., LTD.

アドレス:No.6, Baoqiang Rd., Xindian Dist., New Taipei City 231, Taiwan

TEL:+886-2-8912-4000、FAX:+886-2-8912-4005

技術および非技術サポート(販売/マーケティング): <https://esupport.gigabyte.com>

WEBアドレス(英語): <https://www.gigabyte.com>

WEBアドレス(中国語): <https://www.gigabyte.com/tw>

- **GIGABYTE eSupport**

技術的または技術的でない(販売/マーケティング) 質問を送信するには:
<https://esupport.gigabyte.com>

GIGABYTE

Welcome to eSupport

Submit your product/sponsorship/marketing questions or inquiries, and our representative will respond in a timely fashion.

NEWS
Your submissions will be displayed in your personal page, log in to see the processing status.

SIGN IN

Account
Password

sign in with
f G
t i

Register | Forgot Password | SIGN IN

QUICK LINK

Downloads | FAQ | Warranty